

令和3年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト
「地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業」
成果報告書

2022年4月
一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、一般社団法人日本障がい者サッカー連盟が実施した令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

はじめに

本事業を3年間継続して受託できたことで、「地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備」の基盤となる地域におけるネットワークづくりが大きく進展したと感じている。まずは、我々の活動を継続して採択していただいたことに心より感謝を申し上げたい。

1年目の2019年度は新型コロナ感染拡大の前であったので、9地域を訪問し、対面にて会議を開催することができた。2年目の2020年度も当初は対面での会議を計画していたが、新型コロナの感染拡大が収まらず、やむを得ず9地域毎にオンライン会議を開催した。しかし、「移動」というハードルが低減されたため、結果的に昨年度よりも大幅に出席者を増やすことができた。3年目の2021年度も最終的にはオンライン開催としたが、今までの形式を変更し、地域や都道府県の枠を越えた全体会議やワークショップを複数回設定した。これにより、参加者の都合に合わせた選択が可能になり、また地域を越えた交流が生まれるなど、オンラインのメリットを最大限に活かすことができたのではないと思う。

ネットワークづくりにおいては、2019年度は9地域毎のネットワークづくり、2020年度は都道府県内のネットワークづくり、2021年度は都道府県内のネットワークの自走、ということに重点を置いて取り組んできた。その結果、30の都道府県において、障がい者サッカーを管轄する組織や会議体が設置された。そしてその数はさらに増えつつある。これは本会議を3年間継続できたからこそこの成果である。この継続がなければここまでには至らなかったであろう。

会議は、健常者だけでなく、当然、障がいのある方も参加する。聴覚障がい、視覚障がい、脳性麻痺、肢体不自由、知的障がい、精神障がい等、その障がいは様々であり、インクルーシブで開催されることが当たり前になっている。環境はみんなで考え、みんなで創造していくことが大事だと考えるようになった。当事者が置き去りにされているケースをたまに耳にするが、「健常者＝与える人」「障がい者＝与えられる人」という一方的な考えでは真のユニバーサルな社会は実現しないのではないと思う。本会議を通じて、そのような考えを持つようになった。このようなインクルーシブな会議に参加することで、物事に対する考え方や捉え方に変化が生じてくるのではないと思う。

前に述べた通り、お陰様で障がい者サッカーのネットワークは拡大しつつあるが、残念ながら障がいのある方が気軽にスポーツを楽しめるような場はまだ拡大傾向にはない。これらのネットワークが多くを場を生み出す原動力になって欲しいと願っている。そして、その実現のために継続したサポートを行って行きたい。

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟
専務理事 松田薫二

目次

はじめに

	頁
I. 事業概要 5
1. 事業の目的と内容	
(1) 現状	
(2) 昨年度事業の振り返り	
(2) 本事業の目的と内容	
①実施体制	
②9 地域障がい者サッカー連携会議	
③コロナ禍での対応について	
④実施スケジュール	
II. 9 地域障がい者サッカー連携会議 8
1. 目的	
2. 概要	
(1) 参加者	
(2) 参加条件	
(3) 実施期間と参加人数	
3. 事業内容	
(1) 全体会	
(2) 課題別ワークショップ	
(3) 報告会	
III. 成果 50
1. 障がい者サッカーを推進する組織や会議体等の増加	
2. ネットワークを通じた様々な活動の創出	

おわりに

【添付資料】

1. 2021 年度 9 地域障がい者サッカー連携会議案内資料
2. 成果報告（概要）

【報告書作成担当者】

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟	
専務理事	松田薫二
理事	日比野（田中）暢子
事務総長	山本康太
事務局員	神谷衣香、山口紗都美

I. 事業概要

1. 事業の目的と内容

(1) 現状

東京オリンピック・パラリンピック競技大会が終了し、これまでスポーツを通じた共生社会の実現に向けた機運醸成、障がい者が健常者と同様にスポーツが楽しむための環境整備等が進んできたが、いずれもパラリンピック競技に関わる活動に限り、地域も首都圏が大半を占めている。

サッカー界では、2014年5月15日に公益財団法人日本サッカー協会（以下、JFA）が「JFA グラスルース宣言」を行い、誰もが、いつでも、どこでもサッカーを身近に楽しめる環境を目指し、障がい者サッカーとの連携が始まった。そして、2016年4月に7つの障がいサッカー競技団体*1（以下、7競技団体）が社員となる一般社団法人日本障がい者サッカー連盟（以下、本連盟）が設立された。

*1=特定非営利活動法人日本アンパティサッカー協会、一般社団法人日本CPサッカー協会、特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会、特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟、一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会、一般社団法人日本ろう者サッカー協会

本連盟の活動により、首都圏を中心として、Jリーグクラブとの連携は徐々に進んでいるものの、地域における7競技団体と都道府県サッカー協会やJクラブとの関係構築、地域のスポーツ協会、障がい者スポーツ協会、医療関係者、福祉関係者、学校、行政との連携は不十分で、障がい者が安心・安全にサッカーを楽しめる環境になるには未だ多くの課題が存在している。

(2) 昨年度までの事業の振り返り

本連盟は、これらの課題に取り組むべく、JFAとともに2019年度（令和元年度）と2020年度（令和2年度）の2年にわたり「障害者スポーツ推進プロジェクト」として「9地域障がい者サッカー連携会議（以下、地域連携会議）」を全国9地域（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）で開催した。この地域連携会議には、7競技団体の地域担当者、7競技団体に登録する全国の障がい者サッカークラブ代表者、都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブの関係者等が参加した。

2019年度は、延べ340名が参加し初めて顔を合わせ「連携機会の創出」と「情報共有の場」となり、①障がい者サッカー関係者の初顔合わせ、②全国の活動状況把握（地域単位）、③7つの障がい者サッカーの共通課題抽出ができた。

2020年度は、コロナ禍のためオンライン開催となったが「連携の活用」と「活動創出の場」に発展し、前年より100名増の440名が参加し、①障がい者サッカーに携わる方の増加、②全国の活動状況把握（都道府県単位）、③地域特性および課題の類型化を成果として得ることができた。しかし、地域差に対する解決のアプローチまでは至らず、また、一部の関係者および関係団体のみで活動が行われ、地域全体を巻き込んだ活動ができていない地域があるなど課題も残った。

(3) 本事業の目的と内容

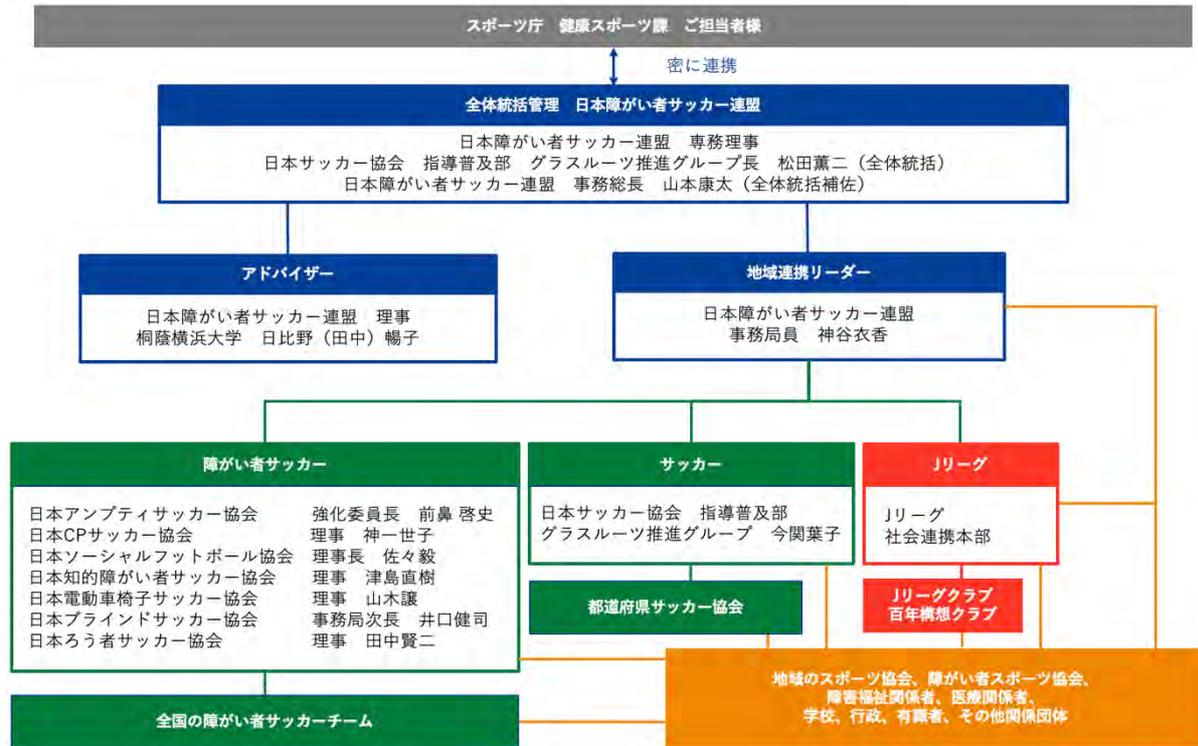
2021年度（令和3年度）は、前年度に類型化した課題を「人材の育成」と「組織の確立・充実」の方向性から解決を図った。地域特性と競技特性を重視しながら、その課題を持つ地域だけではなく様々な立場の方からの意見やアイデアを収集し、都道府県または地域主導で解決していくことを促した。具体的には、2021年度の進め方に関する方針発表と基本的な障がいや障がい者サッカーの知識についての勉強会を兼ねた「全体会」（のべ294名が参加）、共通課題である障がい者サッカーを推進する組織・体制づくり、インクルーシブな場づくり、障がい者サッカーチームづくりや障がいに応じた場づくりについてのナレッジ共有の場として「課題別ワークショップ」（のべ268名が参加）を開催した。

例年開催してきた連携会議は都道府県サッカー協会（地域が主体の場合は地域サッカー協会）が中心となり各都道府県または地域主導で会議を実施し、各団体が連携した活動計画と実行までを促した。さらに、それらを都道府県または地域からの共有の場として「報告会」（のべ132名が参加）を開催し、2021年活動報告と2022年活動計画を発表した。

それにより、昨年度は地域差に対する解決のアプローチに至らず、一部の関係者および関係団体のみで活動が行われ地域全体を巻き込んだ活動ができていない地域があったが、本年度はナレッジの共有をするとともに都道府県サッカー協会、または地域サッカー協会が中心となり活動を進めることができた。

① 実施体制

事業実施におけるコアメンバーを4名体制とし、関連する組織および担当者もプロジェクトメンバーとして実施した。実施体制は下図表の通り。



全体統括を担う本連盟の専務理事松田薫二は、JFA 指導普及部グラスルーツ推進グループを兼務する。グラスルーツ推進グループは、JFA 内で障がい者サッカーを担当する部署で、本連盟と JFA のスムーズな連携が可能となる。

全体統括補佐を担う本連盟の事務総長山本康太は、これまで7 競技団体の一つである日本ブラインドサッカー協会で事業戦略（広報、資金調達、マーケティング等）を統括、大会運営を経験し、代表チームおよびクラブとの連携を行ってきており、障がい者サッカー7 競技団体や登録するクラブの環境に精通している。

アドバイザーを担う理事の日比野（田中）暢子は、スポーツ政策学を専門とし、中央競技団体の競技環境整備に関する研究が多くある。また実践としては、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会理事、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザーなどを務めている。

地域連携リーダーを担う神谷衣香は、2019 年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」実施時に連携の実務、2020 年度同事業実施にはリーダーを務めており、障がい者サッカー7 競技団体、全国の障がい者サッカークラブ、Jリーグクラブの連絡窓口となり直接的に知り得る担当者である。

関連する組織とのスムーズな連携を行うため、事業実施における連携組織およびメンバーには各連携組織からプロジェクトメンバーとして入ってもらった。

② 9 地域障がい者サッカー連携会議

2021 年度は地域主導を掲げ、各都道府県サッカー協会（または地域サッカー協会）を中心に会議体を設け、各都道府県または地域内での連携した活動の計画と実施を目指した。

具体的には、2021 年度の進め方に関する方針発表と基本的な障がいや障がい者サッカーの知識についての勉強会を兼ねた「全体会」、共通課題である障がい者サッカーを推進する組織・体制づくり、インクルーシブな場づくり、障がい者サッカーチームづくりや障がいに応じた場づくりについてのナレッジ共有の場として「課題別ワークショップ」を開催した。

例年開催してきた連携会議は都道府県サッカー協会（地域が主体の場合は地域サッカー協会）が中心となり各都道府県または地域主導で会議を実施し、各団体が連携した活動計画と実行までを促した。さらに、それらを都道府県または地域からの共有の場として「報告会」を開催し、2021年活動報告と2022年活動計画を発表した。

詳細については、Ⅱ. 9 地域障がい者サッカー連携会議にて後述する。

③ コロナ禍での対応について

新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン会議ツール「zoom」を活用し実施した。

④ 実施スケジュール

・全体スケジュール

実施時期	実施事項						備考	
	(1) 地域における障害者スポーツ実施環境モデルの構築			(2) 実行委員会の開催	(3) 事業報告会への出席及び報告	(4) 委託事業成果報告書の作成		
	人材育成	組織の確立・充実	ガイドライン策定					
2021年6月				実行委員会実施				
7月								
8月		全体会						
9月		都道府県主導による連携会議等						
10月	課題別WS							
11月								
12月							取りまとめ準備	
2022年1月			ガイドライン策定			報告会	書類作成	
2月								
3月	実施報告書作成							

II. 9地域障がい者サッカー連携会議

1. 目的

JFAとJIFFは協働し、地域の課題に対応した障がい者スポーツの実施環境の整備をすべく、地域内の各団体が連携し障がいがあっても日常的にサッカーを楽しめる環境をつくることを目的に「9地域障がい者サッカー連携会議」をオンラインで継続開催した。

本会議では、地域特性と競技特性を重視しながら、その課題を持つ地域だけではなく様々な立場の方からの意見やアイデアを収集するとともに、都道府県サッカー協会（地域が主体の場合は地域サッカー協会）が中心となり各都道府県または地域主導で会議を実施し、各団体が連携した活動計画と実行までを促した。

2. 概要

①全体会

2021年度の進め方に関する方針発表とニーズが多かった基本的な障がいや障がい者サッカーの知識についての勉強会を兼ねた「全体会」を実施した。

②課題別ワークショップ

ナレッジ共有の場として好事例の地域担当者をパネリストに招き、共通課題である「障がい者サッカーを推進する組織・体制づくり」「インクルーシブな場づくり」「障がい者サッカーチームづくりや障がいに応じた場づくり」についてのワークショップを実施した。

③報告会

各都道府県または地域主導での連携会議実施後に、2021年活動報告と2022年活動計画の共有の場として報告会を実施した。

開催方法：オンライン

参加費：無料

(1) 参加者

- ・47都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者
- ・9地域サッカー協会担当者
- ・障がい者サッカー7競技団体*の地域担当者
- ・障がい者サッカー7競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブ代表者
- ・その他地域連携会議に参加が必要とされる障がい者サッカー団体
- ・JリーグクラブおよびJリーグ百年構想クラブ担当者
- ・JIFF担当者
- ・JFA障がい者サッカー担当者

*=特定非営利活動法人日本アンパティサッカー協会（切断障がい）、一般社団法人日本CPサッカー協会（脳性麻痺）、特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会（精神障がい）、特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟（知的障がい）、一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会（重度障がい）、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会（視覚障がい）、一般社団法人日本ろう者サッカー協会（聴覚障がい）

(2) 参加条件

①47都道府県サッカー協会

・障がい者サッカー担当者の会議への出席を必須とした。やむを得ず出席不可の場合は、各地域での取り組み内容を説明可能な方が代理出席を必須とした。

②障がい者サッカー7競技団体

・会議には、各地域での取り組み内容の説明が可能な地域担当者の参加を必須とした。やむを得ず出席できない場合は、代理出席を必須とした。

③障がい者サッカークラブ

・地域で活動する障がい者サッカー7競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブへの案内を行ない、任意参加とした。

④JリーグクラブおよびJリーグ百年構想クラブ

・地域で活動するJリーグクラブおよびJリーグ百年構想クラブへの案内を行ない、任意参加とした。

(3) 実施日と参加人数

	全体会	課題別 ワークショップ	報告会	合計
実施期間	①2021年8月16日 ②2021年8月19日 ③2021年8月23日 ④2021年8月26日	①2021年10月4日 ②2021年10月21日 ③2021年10月28日	①2022年1月13日 ②2022年1月14日 ③2022年1月25日	計10日
参加人数	のべ294名	のべ268名	のべ132名	のべ694名

3. 事業内容

(1) 全体会

①会議概要

開催日時	全4回実施 ①2021年8月16日（月）18:30～20:00 ②2021年8月19日（木）18:30～20:00 ③2021年8月23日（月）18:30～20:00 ④2021年8月26日（木）18:30～20:00
開催方法	オンライン（Zoom）
スケジュール	全2部構成 ＜第1部 報告・説明会＞ 18:30～19:00 1. 2019・2020年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り 2. 2021年度の開催概要 ＜第2部 勉強会＞19:00～20:00 ※任意参加 障がいや障がい者サッカーの基本的な知識について 1. 日本における障がい者数と障がい者サッカー人口 2. 国内の障がい者サッカー競技団体と種目について 3. インクルーシブフットボール紹介 4. まとめ
参加人数（実数）*	延べ294名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

スポーツ庁	1 名
JFA	4 名
9地域サッカー協会	8 名
都道府県サッカー協会	63 名
Jリーグクラブ/Jリーグ 百年構想クラブ	94 名
その他サッカー関連団体	0 名
アンプティサッカー	7 名
CPサッカー	7 名
ソーシャルフットボール	29 名
知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル	13 名
電動車椅子サッカー	20 名
ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル	14 名
デフサッカー/ デフフットサル	8 名
その他障がい者サッカー 関連団体	18 名
JIFF	8 名
合計	294 名

②第1部での報告内容

JIFFからの共有	
第1部 報告・説明会	・2019・2020年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り

	<p>会議の目的、これまでの流れ、3つのポイントについて話をしました。</p> <p>・2021年度 開催概要説明</p> <p>地域特性と競技特性を重視しながら、その課題を持つ地域だけではなく様々な立場の方からの意見やアイデアを収集するとともに、都道府県サッカー協会（地域が主体の場合は地域サッカー協会）が中心となり各都道府県または地域主導で会議を実施し各団体が連携した活動計画と実行までを促していくことを促しました。具体的に、①全体会、②課題別ワークショップ、③報告会の開催となることを伝えました。</p>
--	---

③第1部 参加者の声（アンケート回答者：のべ157名）

<p>会議の満足度</p>	<p>■とても満足 36名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのながれと現状が分かり、自分たちが今から取り組んでいく上での取り掛かりに大きな助けになったから。 ・全国の現状などが把握できた為です。Jのチームの御担当者様をはじめ多数の参加があり障がい者サッカーへの関心を皆様が持ってくださいていると感じた為です。 ・自地域の障がい者サッカー活動の取り組みのきっかけとなる。 ・障がい者サッカーのこれまでの歴史や背景がわかりやすくまとまって理解が出来た。 ・初めての参加でしたので、関係者の方を把握することが出来たため ・コロナ禍でなかなか活動できない中で、これまでの振り返りを確認することで、これから見ることができました！ ・現在の障がい者スポーツならび障がい者サッカー競技の競技人口概要が判ったため。 ・現状を踏まえたくえで今後の展開が見え、行動へ移しやすくなったため。 ・今後の活動について、地域のタイプ別で示された資料は、とても分かりやすかったです。 ・障害に対する理解を深める第一歩となったと感じます。 <p>■満足 64名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカー活動の現状と今後の方向性について知れたため。 ・JIFFの活動内容、方針などが分かりやすかったので。 ・これまでの経緯を振り返って説明して頂き、再度会議の目的を認識することが出来ました。 ・各都道府県サッカー協会へ実施要請（協力）を声がけしていただいて有難い。2021年度の実施方法の変更の説明があり、経緯や現状などとても分かりやすかった。 ・個別で説明をうかがうより、このようなパターンでが理想的です。 ・ポイントごとにもう少し細かく説明がほしかった。 ・全国の地域の概要は図を通して理解しやすかった。インクルーシブサッカーを推進しようとする組織が、各地にあることはわかったが、どういう方たちが先導しているのかを知りたい。さらに、その組織がどのようにできあがってきているのか、その後ろ盾や資金源を知りたかった。 ・今までは地域内の理解しかなかったが、全体会に参加したことで全国でもこのような活動をしていることを理解することができて良かったです。
---------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の格差について色覚的に4つに分けていただき、他の地域の現状も含めてさらに深く知りたいと感じました。 ・現状の把握、今後のアクションプランがわかった。事例や想定してほしいイメージもわかったので、企画立案しやすくなった。 <p>■普通 50名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より改善された点が分かったため。 ・OFAとしてこれまでやってきたことに対して、今回の内容を伺ってどのように進めたらよいかわからなくなりました。会議体を設けると言ってもこれまで2回実施済みのため、障がい者サッカーチームとの横のつながりはすでに構築済みだと思っています。組織作りに関してもOFAとしてどうあるべきかをもう少し考える必要があると感じました。大阪においては行政が昔から障がい者スポーツには熱心に取り組まれています。（大阪府や大阪市）OFAとしてもマンパワーがないためまたアドバイスをいただければ幸いです。 ・参考にはなりましたが、コロナ禍で活動が制限されるなか、今後の見通しが立たない。 ・参加者も多かったのですが仕方がないですが、双方向にはならなかった。 ・JIFFの方向性や活動などを聞いて良かった。 ・報告のみの内容で必ず1回は参加するべきものなのか、資料配布が良いのでは。 <p>■不満 6名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県サッカー協会がメインターゲットだと思いますが、地域のチーム（特に初参加）にとっては意義やメリットが見えにくいかなと思えました。 ・概要のみだったのでリアルにイメージが出来なかったです。 ・多くの関係者をつながるという意味では意義を感じた。次回は地域別ではない少人数制を希望します。 <p>■とても不満 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に活動している障がい者サッカー団体がほぼない状態です。「会議体」に関してもっと説明して欲しかった。
--	--

④第2部での報告内容

JIFFからの共有	
第2部 勉強会	<p>■プログラム</p> <p>障がいや障がい者サッカーの基本的な知識について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における障がい者数と障がい者サッカー人口 2. 国内の障がい者サッカー競技団体と種目について 3. インクルーシブフットボール紹介 <p>障がい者サッカーの競技説明だけでなく、それぞれの障がい特性とどのような工夫をすることで一緒にプレーを楽しめるかについて説明しました。</p>

⑤第2部 参加者の声（アンケート回答者：のべ135名）

会議の満足度	<p>■とても満足 44名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体の紹介が動画＋一枚資料で分かりやすかった。 ・競技や競技者について知ることができた。
--------	--

- ・勉強会は今後も続けていただきたいです。知ることができるのは貴重だと改めて感じました。7つまたは10つの障がい者サッカー以外にも、世界には個別の競技があり情報をしれたことは新鮮でした。
- ・障がい者サッカー理解の低さをかなり改善できたから。
- ・実数のみならず、各障がい者サッカーの活動内容もわかった。
- ・サッカーの多様性を知ることができました。競技毎の現状も知ることができたのも大変参考になりました。
- ・各障がい者サッカーのルールや特徴などを改めて体系的に知ることが出来て良かった。
- ・動画で、当事者のプレーにおける集中力が伝わってきました。
- ・それぞれの障がい者サッカーをより詳しく説明してもらい、とても勉強になりました。自分が行っているサッカーはわかりますが他の障がい者サッカーの詳細は知りませんでした。
- ・各競技についてここまで丁寧な説明をしていただく機会は中々ないと思います。障がい者サッカーのことをよく知らずアクションを起こしづらい方にも、混ざり合うとはどういうことなのかのわかりやすく伝わったのではないかと思います。

■満足 57名

- ・関わりが少ない障がい者サッカーについて学ぶことが出来ました。色々な障がい者が混ざって出来ることや、各障がいでの活動に生かしていきたいです。
- ・実施に関わっている方（選手・指導者など）のお話もお伺いできると有難い。
- ・障害者サッカーを知らない方々に対しては、ムービーを取り入れるなどわかりやすい工夫をされていました。
- ・動画や画像、ルール等、そもそも情報を持っていない私には勉強になりました。
- ・7つの障がい者サッカーの説明とインクルーシブにするためのオーガナイズ変更など勉強になりました。
- ・現状、組織作りについては苦慮しているところです。好事例を紹介していただく場面が多ければ、参考にさせていただく機会になったかと思えます。
- ・閉めの松田専務のお話で、もやもやが晴れた感じがした。
- ・これもまた、初めて聴く、あるいは眼にする言葉や表現が多く、自らのように関わっていけるのか、見当がつかないからだと思う。

■普通 30名

- ・表面的にはそれぞれの活動について理解出来ましたが、それぞれの団体について更に詳しく知るには時間が足りないため。
- ・仕方ないように思いますが、質疑が出なかったので、「障害で分からない点」「障害とかかわった経験で戸惑ったこと」など具体的なアドバイスがあればよかったです。
- ・私自身にとっては知っている内容でしたが、Jクラブなど多くの障がい者サッカーに普段なにかかわることが少ないであろう方々が聴いてくださったので、一步を踏み出すきっかけになったのかなと思いました。
- ・主に把握している情報でした。それぞれの団体のPR動画を改めて拝見すると、クオリティの高さと感動的な内容になっているので、うちの協会も作成を考えていると感じました。
- ・だいたいのルールを知っていると物足りなさを感じ、各団体が今後どのように何を目指していくのかなど知りたくなりました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体関係者からのプレゼンがあるといいのかなと期待しました。 ・全7団体の競技説明が丁寧なされていて勉強になったが、障がい者サッカーをあまり知らない方向けの内容が主に感じた。せっかく各団体から参加者がいたので、該当団体からの発言、説明の機会が与えられるとよかったと思う。 <p>■不満 4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既に分かっているが多かったから ・新しい情報が聞きたかったです。 ・競技人口など知ることができてよかったがもっと皆様の意見を語れる場所があればよかった。
感想・気づいた点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとで課題や問題が違うと思われる。コロナが収束すればこれまでのように地域での会議も行って頂きたいです。WEBでも可能ですが、関係者のコミュニケーションや関わりを深めるために、1回/年は対面を希望します。 ・静岡県は障がい者チームも多く連携が取りやすいのであれば神奈川県のように連携した大会・イベントが実現しやすい環境ですね。 ・対象者の立場になって考え、様々な工夫をすることで練習の幅はかなり広がると感じた。もっとこうした方がいいのではないかと試行錯誤する時間をスクール前、スクール後にしっかりと時間を取ればと思う ・各地で、様々な団体が関わり合える機会が増えると良いなと思いました。交流イベントの企画も大切かと思いますが、私たちのようなサッカークラブが自ら他団体と関わりたいと考え行動しなくてはならないと感じました。 ・このような機会は大切だと思います。ありがとうございました。 ・準備も含め、大変お世話になりました。非常に分かりやすい内容でした。会議の趣旨、JIFFの意図や方向性を理解することができました。ありがとうございました。 ・秋田県の現状を把握できたので、今後に生かしたい。 ・自分にとっては、テーマが大きすぎて、宮城県FAとしては何ができるか、何をすべきかをまだまだ模索中&勉強中です。協会内で強化育成、指導者養成に携わっていた時は目標も明確で方策も定まっていましたが、障がい者サッカーのお手伝いは自分のなかでまだ整理がついていません。今後ともよろしくお願いします。 ・全体を通して、障害者サッカーを普及したいという想いが伝わらない。もっとリーダーシップを発揮してほしい。 ・自協会の取り組みが遅れていることを痛感した。担当役員と協議し自協会での協議会を開催し、県協会としての意識を高めたい。 ・①これだけ多くの方が障がい者サッカーに興味をもっただけなのか...と嬉しい思いの反面、どこまで真剣に考えて頂けているのか不安も感じました。全ての方が大いに興味を持ってくれるようでしたら、障がい者にとって、とても大きな力になるだろうと思います。②今回参加されていた方の多くは、クラブ関係、都道府県協会の方のようでしたが、是非、大学を巻き込むのはどうかと思いました。私の立場は、障害学生の大学教員という立場で参加させていただきましたが、一般大学にも多くの障害学生がいますし、最近の健常学生は障害者スポーツに興味を持ってくれます。ごちゃまぜサッカーなどのイベントを開催するときなど、積極的に関わってくれと思います。今後も、大学教員という他の方とは違った立場かもしれませんが、参加させていただきたいと思っています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区、県の現状についてディスカッションは必要だったと感じます。 ・スポーツをできる状態の障がい者を各スポーツ団体（陸上や水泳など）が奪い合っていると聞きました。本県でも障がい者スポーツ協会の会報を見ると、陸上や水泳や卓球をやっている人はそれなりにいるようです。スポーツができる状態の人は既に他のスポーツをやっている可能性が高く、そういった人にサッカーもやってもらえないのかも知れない。 ・小さな県で人口も少ないので、障がい者も少ないため、まぜこぜしかない。 ・昨年、障がい者サッカー関連の打診をしている際に、障がい者は免疫力が弱い選手が多いのでコロナ禍での活動は難しいと聞きました。地元のソーシャルサッカーのチームも活動を停止しているようです。コロナが終息するまではリアルでの活動は難しそうです ・地域で障がい者サッカーが盛んな地域とそうでない地域では、普及活動の主体がJFA側であったり、JIFF側であったりします。障害のある方がサッカーを楽しむ機会を増やしていく活動においては一致します。JFAで「〇月はインクルーシブインクルーシブサッカーの月？的なフェスタ」をJリーグなど共催で全国で開催する様なものが出来ると面白いと思います。活動するには費用が必要ですが…。 ・現場で指導されている方などの話などあればさらに深まったかと思えます。 <p>今、普及認知させようとしている状況かと思いますので、JIFFが現場の方にもっと身近に感じられるといいのかなと思いました。</p> <p>関東圏は地方に比べ、チーム数も多く普及が進んでいる印象を受けました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間で包括的な内容の紹介だったからか、現場の方がなにを求めているかもわからず（実際とても幅広いのですが）、実際に参画するイメージがあまりわかかなかった。 ・障がい者のスポーツ実施率（週1回以上）は、24.9%と健常者の59.9%に比べまだまだすそ野を広げていく必要があると感じました。 <p>我々としなくても、大阪サッカー協会と連携を取りながら進めていければと考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の会議がオンライン開催であったことも影響しているかと思いますが、弊協会登録チームの様子を見てみると、「会議に参加したけれど何をもち帰れたのかわからない」「ネットワークが構築できなかった」「次に何をしたらいいかわからない」「チームとして出来ることは何なのかわからない」といった様子が見受けられたように思います。（多くの方の意見を聞いたわけではないですが）。その点、今年度のようにアクションプランを提示した上で各地域での連携を促してくださることはとても有難く、今後各地で活動が展開していくきっかけになるのではないかと思いました。 ・チャットでも終わり際に入力してしまいましたが、今の状況で大変な思いをされている方もいるかもしれませんが、サッカーで繋がっているということも私にとってプラスとなっています。リモートでもお顔が拝見できて嬉しかったです！私が受けたプラスを周りの方々へ発信できるように今できることをやっていきたいと思えます！松田さんはじめ、JIFFの皆様準備もありがとうございます！今後ともよろしくお願ひします！
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度より、新潟FAのグラスルーツ委員会を再編成によって、統合し、スタートしているが、自分も含め、委員の研修が必要、また、現状の把握が必須であると感じた。
<p>その他・要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「各自努力しなさい」というように感じとったのですが、その理解でいいでしょうか？ ・精神科というのは独特な世界観というか、これまでの時代を振り返っても収容の歴史があります。本人もご家族も治療を最優先して、スポーツにはなかなか目を向けられない。医療者も治療を優先する傾向にある。精神科医療を変えていくためにも、フットボールやスポーツによる変化を望みたい。外部からの働きかけが必要と感じている。そのため、サッカー界からも変革を呼びかけてほしい。 ・計画について、もう少し早く知らせていただくと年度の動きに反映させやすい。 ・地域や団体での先進事例とかの共有があればと思いました。過去までの会議でいろいろお聞きしているので、今回は敢えて時間の都合もあり取り上げられなかったのかとも思いました。 ・80名～90名もの方々にご参加いただけたのは良かった！各障がい者サッカーの概要だけではなく、プレーやサポートをしている方々の情熱の根幹や「競技の魅力」が伝わるとより深みが増すのではないかと思います。 ・次回以降でワークショップという流れは理解したうえで、概要理解とは別に他の参加者とそれぞれの視点でリアルな現場の情報共有の場が欲しかったです。 ・事前参考資料として送られた障がい者サッカー公認指導者研修会についての話をしていただけると良かった。 ・各競技の紹介の際、実際に携わっている方々から全体目標に沿った課題を共有いただければ良かったなと感じた。 ・他の競技団体や他の地域の人達との、意見/情報交換などもできる場があるとありがたいです。 ・少しでも、参加者で情報交換やディスカッションができると良かったと思う。 ・コロナ禍でなければ7つの種目について、実技等の集合研修があれば参加したいと思いました。 ・レベル1～4までの都道府県がある中でそのレベルにあわせて会議をしてもいいと思いました。また地域レベルでの会議はやはり必要かと思いました。

(2) 課題別ワークショップ

2-1. 障がい者サッカーを推進する組織・体制づくり

①会議概要

開催日時	2021年10月4日（月）会議 18:30～20:00
開催方法	オンライン（Zoom）
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 2. プレゼンテーション・質疑応答 ①瀬戸脇正勝氏 （静岡県サッカー協会／静岡県知的障がい者サッカー連盟） ②山根卓也氏（鳥取県サッカー協会） ③金城充氏 （沖縄県サッカー協会／沖縄県障がい者サッカー連盟） 3. グループディスカッション 4. ディスカッション概要共有・クロージング
参加人数（実数）*	105名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

JFA	2 名
9地域サッカー協会	2 名
都道府県サッカー協会	46 名
Jリーグクラブ／百年構 想クラブ	11 名
その他サッカー関連団体	1 名
アンプティサッカー	2 名
CPサッカー	1 名
ソーシャルフットボール	15 名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	2 名
電動車椅子サッカー	5 名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	5 名
デフサッカー／ デフフットサル	2 名
その他障がい者サッカー 関連団体	4 名
JIFF	4 名
合計	105 名

②会議内容

プレゼンテーション内容	
瀬戸脇正勝氏（静岡県サ ッカー協会／静岡県知的 障がい者サッカー連盟）	静岡県内での静岡県サッカー協会と障がい者サッカーの組織的な繋がりや成り立ち、現状についてお話頂きました。
山根卓也氏（鳥取県サッ カー協会）	鳥取県サッカー協会内技術委員会普及部会の障がい者サッカー推進グループ（組織体制）、活動状況、課題についてお話頂きました。

金城充氏（沖縄県サッカー協会／沖縄県障がい者サッカー連盟）	沖縄県サッカー協会内の委員会と連盟のそれぞれの役割と目的、外部に組織化したことなどについてお話頂きました。
-------------------------------	---



ディスカッション後の共有	
	日本発達支援協会からのお話で当事者の子どもたちの立場や目線を理解することが何より大事である、というお話があり理解できる場づくりをすることの大切さに改めて気づいた。
	異なる障がい者サッカー競技の横の繋がりをつくるのが難しい。その横の繋がりをどのようにつくっていくのかは、皆さん共通して関心ごととしてあることを感じた。
	静岡の例として、デフの体験教室をする際にアンプティの方に参加してもらって紹介をするなどして、コミュニティのなかで繋がりをつくるという事例がある。
	各競技の全国大会で各担当者が集結し横の繋がりを作っていくという話で一致団結した。
	就労支援のサポートが共通のキーワードとして出た。一クラブでできることだけではなく、普段の生活を色々なステークホルダーと連携して行っていく必要がある。
	佐賀では国体から変更となった国スポが初めて2024年に開催予定。自治体、FA、Jクラブで連携を取りJの試合の前に、前座試合として知的障がいサッカーの試合を行い、県内の特別支援学級の生徒100人も招待予定。更に、国スポが延期になった関係で鹿児島県とも協力をしている。
	鹿児島FAはまだ特別な組織がないので、今日聞いた事例はとても参考になった。来年4月にFA内でインクルーシブ委員会を立ち上げられるように動いていきたい。
	山口県では、県内3団体が主に活動中でそれぞれの協議会を作ろうという話が進んでいる。各団体がフェスティバルなどを実施することで他競技も盛り上がっていくと思うので、まずはそれぞれの団体の窓口を作っていく。

③参加者の声（アンケート回答者：69名）

会議の満足度	<p>■とても満足 28名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークが広がった、先進的な取り組み事例に触れられた。 ・他の県や団体の方の情報もいただくことができた。 ・やはりまずはこういう場や機会を設けていただけたことに感謝しております。できることからつなげていくことが何よりも大事かと思いますので、同じ志をもったサッカーファミリーの皆さんでの共有の時間がとても嬉しかったです。ありがとうございました。 ・静岡県の取り組みが歴史もあり、広がりもありすごいい었습니다。 ・グループワークは他県の活動を知る機会になるのでとても良かったです。 ・3団体の共有事例、ディスカッションのバックボーン異なる方々の事例を多くうかがうことができたため。 ・インクルーシブフットボール委員会関係各組織の成り立ちなど様々なケースのお話を聞くことができたのでとても為になりました。普段お話できない方達との交流もとても有意義な時間となりました。
--------	---

- ・参考になる事例を聞いたのと、他地域の方と顔が見える繋がりを持つことができました。
- ・現在関わっている方々の全国の皆さんから生のお話が伺えた。
- ・他県の取組を知り、真似てやってみたいと感じました。その中で様々な横のつながりを作っていければとも感じました。

■満足 33名

- ・横の繋がりを強くしたい想いが強くなりました。
- ・色々な地域の方の現状や考えを聞く事や交流が出来て貴重な経験になりました。
- ・グループディスカッションの時間をもう少し欲しかった。
- ・たくさんの方の取り組みの概要をお聞きすることができた。詳細をもう少しお聞きしたかったのと、ディスカッションの中ではほとんど自己紹介で終わってしまった。
- ・鳥取や沖縄など、地域特性があるFAの話をお聴きしたこと。
- ・テーマの組織、体制づくりでしたので、組織作りができていない当協会として、参考にして糸の思いでいましたので大変良かったです。
- ・他地域の活動事例や、現状・課題などを広く知ることができた。
- ・先駆的に取り組まれている内容と過程が共感できることがあったことや、今後試したいと思える内容も聞けたため。
- ・3FAともに素晴らしい取り組みをされていること、FA内で協力体制ができていたことが分かりました。一方で、まだ0の状態からどうやって1（0.1でも0.2でも）にしていくのか、そこが悩ましい。今回の事例では、先導者がいたり、障がい者団体の方との出会いがあったりだと認識しましたが、最初の一步のところをもう少しお聞きできればよかったかと思えます。
- ・各地での組織設立の流れや活動内容を伺うことができ、とても勉強になりました。主に都道府県FA向けの内容ではありましたが、障がい者サッカー側がどのように関わりを持っていけばよいのか、考えることができました。グループディスカッションでは着地点が見つからず沈黙も生まれてしまい、どのようなお話に時間を割けばよいのか困ってしまいました。
- ・地域と他の障害者団体との繋がりやクラブチームとのかかわりについてお話しを聞くことが出来たのでとても勉強になりました。また、グループディスカッションも勉強になりました。
- ・好事例のご紹介、大変参考になりました。時間が短かったこともありますが、「どうしても困ったこと」、「またその解決の方法」等、教えていただけると幸いです。

■普通 5名

- ・好事例をうかがえたことはよかった。具体的な活動内容や組織を作るにあたって必要なことが聞きたかった。
- ・ZOOMに不慣れなため、グループミーティングの時にいつ話をしたらいいかわからず、せっかくの共有の機会を活かせなかった。
- ・組織の立ち上げに関してもう少し具体的などころも知りたかった。

■不満 2名

- ・いい内容でしたが、「とても満足」とまで活発な意見交換・情報共有の場ではなかったと思うからです。

<p>その他意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本日も貴重な学びの機会をいただきありがとうございました。もちろん各個人の承諾を得てからになります。参加名簿や連絡先などを共有できると、より連携が深まるのかと思いました。私の勉強不足です。そのようなものがありましたら申し訳ございません。今後ともよろしく願いいたします。 ・ランダムでの個別ディスカッションにする事で、新しい出会いがあったのがよかったと思いました。話が盛り上がってきたところで終わってしまったので、もう少しお時間をいただきたかったのと、同じグループの方のご連絡先を共有いただけますと継続的なコミュニケーションが可能になると思いました。 ・このような機会をつくっていただきありがとうございます。いろいろな立場の方とつながり、興味深いお話もたくさん聞くことができました。各地域・各人の抱える状況・課題は様々ですが、皆さん課題解決のために活動されているお話をお聞きできてよかったです。今後は具体的に、課題解決に向けた意見交換ができると嬉しいです。 ・フェスティバル開催にあたり運営のノウハウや工夫が知りたいです。さらにフェスティバル後の仲間づくりと機運の高め方、組織作りへどうつなげていったのか知りたい。 ・「ひろげよう！ サッカーファミリー 次の100年へ」の冊子の中に書いてある山本康太事務総長さんの、「同じものは見えないけれど、同じ想いにはなれる。」いい言葉だと思います。よく似た言葉で、宮沢章二さんの詩に、「心は誰にも見えないけれど、心づかいは見える。思いは見えないけれど、思いやりは誰にでも見える。」「思い」をしっかりと形（行動）に表していきたいといつも思っています。 ・知らない事が多いので、毎回勉強させてもらってます。ありがとうございます。 ・今回のような内容は今後もぜひ続けてほしいと思いました。次への一歩になると確信しました。 ・障害者サッカーを推進していくための団体や取り組みが良いことであるのは理解していますが、それらをすることで具体的にどのような効果があったかを改めて知りたいと感じました。またJクラブに協力してもらえらることで、認知度の向上以外にどのような効果があったのか。また大都市圏特有の悩みなどを一緒に考えたりできる場があればと感じました。最後にお忙しいところ、開催いただきましてありがとうございました。引き続き参加させていただければと思います。 ・持続可能なカタチで発展していくことは、障がい者プレーヤーにも、サポーターにも、サッカー界やスポーツ界、社会にも必要なポイントだと思っています。そのために属人的にならず、組織の中で看板を背負いながら活動していくことが大事で、そのことから発信力も生まれて広がりができていくのではないかと思います。障がい者スポーツ協会側でもサッカー協会側でも、単独組織でも良いと思います。その県、その地域、その時代にあった形で組織構成がされていければ良いと思っています。鳥取も、地道にがんばっていきたくと思います。ありがとうございます。 ・このような機会を設けていただきありがとうございます。途中でミーティングルームで一緒になった方の分だけでも、連絡先などを共有いただけるとありがたいです。 ・グループディスカッションを長くできればいろんな話や交流ができると感じたのでやりたいです。あと参加者の連絡先が知りたいです。 ・グループディスカッションで「支える側の理解」の大切さと、サッカーに特化しない取り組みも大事だと気づかされました。
--------------	---

障がい者サッカーを推進する組織・体制づくりについて、自組織やご自身でできること、やってみたいこと、既に取り組んでいること等		
東北	体験会・大会の実施	現在、知的障がいサッカーチーム・県選抜の練習会やデフキッズ等を見学させていただき情報交換を実施し連携を模索中。また、インクルーシブ親子ウォーキングサッカー体験会の開催予定。
	インクルーシブ	ベガルタ仙台ではインクルーシブスポーツ教室、ベガラボなどの活動を行っている。
	組織連携	<p>中学高校のサッカー部との交流活動、学校卒業後のサッカー教室やフェスティバルの開催、県F AやJクラブ、行政などとの連携したつながり。</p> <p>東松島市さまと一緒に日本デフサッカー協会の各カテゴリー日本代表合宿の受け入れのお手伝いを行っております。</p>
関東	組織連携	障害者スポーツ協会との連携やJクラブの就労支援の話。
		東京では、現在進行しているインクルーシブ連携会議は、まだ、状況を聞いているところなので、これからなにか発信することがあるかどうか？協力できることがあるか？模索中。
		品川区では少しずつ話し合いの場を持つなど、区内での連携はされつつある。東京まで広げると、JIFFさん主催の会議に限られてしまうが、歴史やリソースのあるチームも多いので、東京のFAで集まることができれば大きな活動ができるのではと感じた。
		本県では茨城FAや育成いばらき（鹿島アントラーズ・水戸ホーリーホック・筑波大学・流通経済大学）などを中心に、協力・連携を図ることができているので、我々インクルーシブ委員会が障がい種別を超えて、つながりの橋渡しができるように今後も連携を深めて、本県の特徴や色を出せるように精進していきたい。
		組織・体制づくりを近日中に進めようとしています。
		県サッカー協会内に障がい者カテゴリーを作る流れがあり、11月にJリーグ試合の前の時間に複数の障がい者サッカー団体と協働でイベントを実施する。
その他	最後に松田チーフがおっしゃっておられました、障がいがあっても誰もが集える場所作りを目指して行きたいと思いました。	
北信越	競技強化	長野県障がい者福祉センター（障がい者スポーツセンター）の職員として、また県F Aグラスルーツ委員として、現在は全国障害者スポーツ大会ブロック予選出場に向けた選抜チームの活動と、選手たちの日常的な活動

		環境をつくることを中心に行っています。今後は県内で障がい者サッカーの競技団体設立を目標に、県内の当事者と、サッカー関係者（競技団体・指導者・チーム等）との橋渡しをする役割を担えればと思っています。
	組織連携	サッカー協会、地域の自治体と連携を組み活動をしていきたい。
		現在ではまだまだ狭い範囲でしか活動できていないので、いろいろな人を巻き込む工夫をしなければならないと思った。
		富山県にはまだ障害者サッカー推進の組織がないので富山県サッカー協会を中心に早急に整えていきたい。
東海	広報	7つの団体に足を運び一緒にサッカーを楽しむことと、健常者に対しても障がい者に対しても表に出すことだと思っています。
	組織連携	地域協会とすると各県からの持ち上がりに期待します。そのための情報提供を行っていきます。
		地域と障がい者サッカーのつながりを濃くする
		県内には、特別支援学校でのサッカーが活発になされ、6つの支援学校の「校長杯」といった事業をしていただいています。私自身も、昔の「養護学校」にて初任を迎えましたので、比較的スムーズにお話をさせていただきました。他に、電動車いす（1名）、PCサッカー（立ち上げ中）、ソーシャルフット（1団体）を、うまく連携をとり体制作りをしたいと考えています。
	インクルーシブ	インクルーシブスポーツに関しての理解を深めることの必要性をとても感じている。
体験会・大会の実施	静岡県サッカー協会では瀬戸脇様を中心にいろいろ活動を行って貰っています。私、自身活動に参加したことが無いので一度体験したいと思っています。	
関西	広報	上記記載の通り、組織はないが体制としてはあります。常勤者として大槻、そのサポートで筒井という形の中、どれだけ人を巻き込めるかを検討していきます。また、やるサッカーだけでなく、見るサッカー、支えるサッカーを含めた活動の輪をどう作れるか検討していきます。見ることもサッカーの入口ですし、支えるのも障がい者サッカーを知っていただく取り組みかと思えます。
	組織連携	チームの中で人材育成課や広報拡大課などチーム全体で組織化し、チーム全員で役割を持っている！
		滋賀県も組織・体制づくりが必要だと感じました。
	インクル	共生社会に向けた取り組みとしてイベントを独自に開催している

	ーシブ	ごちゃまぜでフェスティバルをやる
	体験会・大会の実施	やってみたいこととして、我々自身や周囲で活動しているフットボールファミリーを巻き込んで、ひとつの目標となる大会や体験会等を企画できないかと考えています。
中国	広報	僕は、自分自身が知的障がいと学習障がいを持っていることをSNSで沢山の方に知ってもらい自分の夢の活動も本当に沢山の方が応援、協力してくださっています。
		あえて、マスメディアの広報をつかって集客をしてみたい
	組織連携	各競技団体に委員長としてHIFFに参加してもらおう取り組み
		県内に既にしっかりとした連盟があるので、有効なつながりが持てるような組織を県サッカー協会内に展開したいと考えています。
		A-pfeile広島ではチーム内の各種目との情報共有、HIFFや他県のFAさんや組織とのつながりを取ることが障がい者サッカー推進するためにできることなのかなと思います。
		岡山県FA主導で障がい者サッカー団体関係者のグループワークに参加中。横の繋がりができる環境はそれだけで1歩前進していると感じる。競技によって特性が違うがアイデアを出し合い実施することを形にできればと思う。
組織連携	県内の障害者サッカー連盟（案）を設立して、いろいろな障害者の方が集まれる場所や活動を提供していきたいです。	
体験会・大会の実施	A-pfeile広島をはじめ各障がい者サッカー関係者とH I F Fのコミュニケーションはとてもよく、情報の共有ができています。やはり個人レベルチームレベルそれぞれが理解し合えるよう、ウォーキングフットボールを通しても行えています。	
四国	広報 組織連携	県内でまずは知ってもらうことを第一に出来ることから少しずつやっていきたい。今年は、初めて10月にデフサッカー日本代表候補合宿を開催してもらうことになったので、デフサッカーを知ってもらうきっかけにしたいです。また、コロナ禍で延期となりましたが、徳島県よパラアスリート講演会の依頼も頂き、年明けに延期して代表選手をお招きして講演会と交流会を開催予定
	組織連携 体験会・大会の実施	徳島では、ソーシャルフットボールとデフが活発に活動しており、デフの合宿でのイベントに誘っていただいたり、ソーシャルフットボールと県が実施しているイベントにデフにも参加いただいたり、サッカー協会がつないでくれていい関係が築けています。Jリーグのサポートも積極的で毎月の交流会の開催、前座イベントへの招待やホームゲームイベントでのボラ

		ンティアにも参加予定です。大変良好な関係を築けています。
	組織連携	委員会のメンバーを増やして、様々な意見を聞いて出来る所から始動したいと考えています。
		FA内に1種委員会などと同様に「ウォーキングフットボール委員会」を作り、障害の有無に関係なく誰でも参加できる混ぜこぜ大会を開きたい。それをきっかけにしたいと思っています。インクルーシブ委員会よりも、障がい者サッカーチームがほとんどない状況だと、混ぜこぜとしてのウォーキングフットボール委員会の方がいいのかなと思っています。
		次年度に向けてインクルーシブ委員会を立ち上げる予定である。
	体験会・大会の実施	約10年前から障がい者支援をおこなっている。発達支援の子ども達や精神障がい者の大人の方々とヴォルティスのグラウンド等で月に一回練習会を行っており、全国大会に参加したり、障がい者チームと健常者チームで大会を開いている。
九州	組織連携	九州地域内の各FAの取り組みを集約し、地域でできることを検討していきたい。
		全県での担当者会を企画している。
	インクルーシブ	競技者が少ないので、障がい種を越えたというか障がいという垣根を取り払ったスポーツの場づくり
	体験会・大会の実施	障がい者と健常者がともに楽しめるウォーキングサッカーの普及に取り組んでいる。
日本で一番の障がい者サッカーフェスティバルをやりたい		
各種競技の体験交流会の開催		
その他	その他	障がいを持たれている方とコミュニケーションをとるようにしています。その中で、どのようなフォローがあればいいのかを純粹にうかがい、仲間づくりをしようと考えています。

自組織やご自身が障がい者サッカーを 推進する組織・体制づくりをする上で感じている課題		
東北	組織連携	県内のそれぞれの障害者サッカー団体と平等に連携しなければいけないのか？取り掛かりとして、特定の団体との連携を強化すべきか？また、対象を子供にしぼって始めるべきか？が課題です。
	組織連携 資金難	きっかけ作り、費用面、運営母体、協力団体

	資金難	組織で役割分担をして進めていくこと、財政的な支援と理解の格差
		恒常的に関われる環境と他のスタッフの意識改革
	人材不足	運営側のマンパワー不足
		人員の確保・理解を得ること（環境を身近に感じてもらいにくい）
関東	組織連携	各障がい者サッカー団体、チームとの横の連携 現在ある団体等の代表者に集まっていただき、一度イベントを開催し、参加者と組織づくりに協力要請等していこうかと思えます。 インクルーシブ委員会のメンバーに今年度は上記のJリーグの普及コーチなどを中心に入っていただき連携を深めているが、教員が多い組織であるのでフットワークや時間的な制約など、まだまだ課題も多いので、いろいろな方々にご協力・ご理解をいただきながら、今後も障がい児者誰もが・いつでも・どこでもサッカーを楽しくできるような場や環境づくりに取り組んでいきたい。
	場所	競技性を担保しつつ、活動するのに場所がないのはずっと課題として掲げている。 東京にはパラアリーナがあり、ある程度整った環境で活動はしやすいものの、ブラインドサッカーでは壁がなかったり、試合形式での練習が難しかったりと最高の環境とは言い難い。 子供が放課後にふらっときて、遊びで競技をできるような場が有れば、練習場所の確保や競技人口を増やす意味などでも良い環境ができると思っている。 そこに至るまでにはまだまだ高い壁があることも感じている。
	資金難	やはり組織経営するためのハード（経費面） しかし、SDGSに乗っかりスポンサーから少額をお寄せ頂いても良いのかなあ？とも思いました。
	人材不足	特定の人に負担が掛かることがあると感じます。 スポーツから社会(行政)に意義のある活動であるという事を認識してもらいたい、クラブ内での専門的領域で、この仕事をしておらずマンパワー不足を感じる。
	その他	一部の団体に偏らず、7つの団体とどういう風に進めたらいいかという課題から、そのままの状況です。
北信越	人材不足 資金難 組織連携	予算／選手登録等の制度（どのように情報を収集・管理・共有するか）／支える人材の確保／県F Aと障がい者競技団体との連携・役割分担 等

	資金難 組織連携	予算の問題。行政やサッカー協会などへどのようにアプローチ方法。地域にソーシャルフットボールチームを立ち上げたいというところがあるがそことの関わり方など。
	組織連携	情報の一元化、窓口が未整備。いくつかの団体がそれぞれで頑張っている状況。横のつながりはほとんどないので顔を合わせて一致団結していくことが大切だと考えている。さらに、我々富山県は北信越単位でも情報共有や連携・交流していくべきだと思う。
		本県で今把握できているのは、知的障がい者、電動車椅子、デフ、と選手も少ないが、少ないからこそ横のつながりを作り、みんなで関わられるようにしたい。
東海	組織連携	静岡県FAと7団体とのつながりを強化する
	障がい者理解	各競技を行う施設管理者の理解が必要だと思います。施設料金の減免など使いやすい環境づくりをお願いしたいと思います。
	障がい者理解 人材不足	周りの理解を深めて、仲間を増やしていく作業が大変。 種目が多いので、全てには手が回らない。
	場所	練習する場の確保だと思います。また、関わる方々のサポートの支援だと思います。
	その他	ソーシャルフットボールは、フットサルなので若干コラボしにくさがあります
登録の問題があろうかと思っています。		
関西	組織連携	大阪ではどんな組織が必要になっているかを改めて考えていく必要がある。大都市圏ならではだと思いますが、背景や思いのあるたくさんのクラブや障害者サッカー団体があるので、同じ方向を向いて進めていくことは困難を伴うと思います。まず個人的な活動として知るところからリスタートしていきたいと感じています。
		組織体制の不備が大きな課題と考えています。
	組織づくりに向けて手探りであったが、今回のプレゼンをヒントに協会の技術委員会の中で組織体制を構築していきたい	
人材不足 資金難	なるべくお金のかからない様に障がい者手帳など当事者が持っている手帳を使いコート代などが極力少なくなる様にしなければ、仕事をしていてお金を持っている人もいるが、ない人は参加できずチームとして練習も少ない人数で行わなければならない、定期的に格安で使えるコートがあればそこに当事者だけでなく健常者の人達も混じりながらボールが蹴れてそこからつながりができる。正直マンパワーとお金とリーダーがあれば組織は自	

		然とできると思う。
	イベント	コロナでできてないが、もっと交流の機会、フェスティバル等を増やす。
	競技人口	大会となった際の選手の不足
	その他	愛知県をもっと静岡県に近づく取り組みができればいいなと思います。
中国	組織連携	広島県以外（中国5県）のFAさんや組織とのつながりがないことです。
		横の繋がりを作ることや仕切る方の変革を感じる。
	障がい者理解	やってみたいと声を上げたときに救い上げてくれる環境や情報がすぐに手に入るように環境を整えることが課題としてあると思います。 組織を作ることも大切ですが、今までの日本における障がい者の方達の歴史なども理解が必要だと思います。私はまだ関わっている期間が短い為知らないことがたくさんあります。
	障がい者理解	協会内で、総論賛成ではあると思いますが、なかなか具体的なことへの興味とか理解が得られづらいと感じています。
	競技強化	ルール作り。持続可能な発展のため。
	組織連携	山口県では、障がい者本人から「サッカーをしたい」と気持ちには、「サッカーチームで活動したい」だけではない。いろいろな形でサッカーに取り組みたいという気持ちがある。例えば、サッカーのイベントに参加して、そこで話がしたいだけの人もある。継続的に普及活動を行いながら、地域で認知される組織を作るには、時間がかかる。
	その他	都合を合わせて一緒にイベントをする、ミーティングすること自体難しい
四国	組織連携	我々は、ソーシャルフットボールを現在行っているが、他の団体との横の繋がりが少ないことが課題。
		障がい者や障がい者団体との接点がないこと。FA内で理解と協力を得ること。
	組織づくり・体制	他の障がい者サッカー競技との繋がりを持てるように、集約できる組織作りが必要と感じました。 普及活動においても継続的な活動は個人で通常の仕事をしながらの活動は不可能なので、活動に対してのどのような支援があるか、他県の活動を参考に組み込んでいきたい。
競技人口	人口が少ないため、選手人口も少ないことや、交通手段が少ないことで参加ができない方もいるので、誰もが参加できる体制を作ることや、強化練習等レベル別の練習体制を作ることが難しい。	

	人材不足	<p>障害者にかかわる人材を集めなければならないが、その人集めに苦勞しそうである。</p> <p>人選をどう行い、リーダーを選ばなければならない。</p>
	人材不足 資金難	<p>指導するスタッフやサポートスタッフの人員不足とお金の工面で苦勞することがあります。特に人員不足はボランティアでの参加が主であり仕事がない休日などに来てくれる方となると該当する方が少ないです。</p>
九州	広報	<p>啓発活動</p>
	人材不足	<p>スタッフがまだまだ不足しているので、広報活動をしていくこと。</p>
	障がい者 理解	<p>障がい、健常関係なく当たり前の社会に持っていくところ</p>
		<p>まだまだ理解が不足していると感じた</p>
その他	<p>課題までつながっていないので、課題が出るような動きをしていきたいと思えます。</p>	
その他	人材不足 資金難	<p>協会登録チームの多くは人間的・金銭的な余裕がなく、また介助者の確保が難しい状況で、中々そういった動きに積極的になれません。また、他団体と共同でイベントを開催する際にも車椅子の調達・運搬が課題となってしまいます。</p>

2-2. インクルーシブな場づくり

①会議概要

開催日時	2021年10月21日（木） 18:30～20:00
開催方法	オンライン（Zoom）
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 2. プレゼンテーション・質疑応答 ①瀬戸脇正勝氏 （静岡県サッカー協会／静岡県知的障がい者サッカー連盟） ②神一世子氏（CPサッカー&ライフ エスペランサ） ③山本康太（日本障がい者サッカー連盟） 3. グループディスカッション 4. ディスカッション概要共有・クロージング
参加人数（実数）*	94名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

スポーツ庁	1名
JFA	2名
9地域サッカー協会	2名
都道府県サッカー協会	30名
Jリーグクラブ／Jリーグ 百年構想クラブ	24名
その他サッカー関連団体	0名
アンパティサッカー	0名
CPサッカー	2名
ソーシャルフットボール	14名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	4名
電動車椅子サッカー	6名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	1名
デフサッカー／ デフフットサル	2名
その他障がい者サッカー 関連団体	4名
JIFF	3名
合計	94名

②会議内容

プレゼンテーション内容	
瀬戸脇 正勝 氏（静岡県サッカー協会／静岡県障がい者サッカー連盟）	静岡県内でのインクルーシブな場づくりの事例として、パラフットボールの取り組み、将来の展望についてお話頂きました。
神一世子氏（CPサッカー&ライフ エスペランサ）	神奈川県川崎市を中心に活動するチームの歩み、運営体制、資金調達、メンバー発掘などについてお話頂きました。
山本康太（日本障がい者サッカー連盟）	団体設立初年度から取り組むインクルーシブフットボールフェスタについてお話をしました。



ディスカッション後の共有	
グループディスカッションのなかで富山県FAとツエーゲン金沢の方がいたが、ツエーゲンのブラサカのチームで富山県でも体験会ができるよう協力してほしいなどの話で繋がれたことが良かった。	
やれることからまずやっていくことが重要。最初は1競技からでもよいので、どこからやるのか考えそこから取り組んでいくことで次につながっていくと思う。	
イベント等だけでなく日常的な活動を続けていくことが大事だということが改めて感じられた。	
改めてインクルーシブな活動を全国的に皆さんと協力して更に推進していきたいと感じた。	

③参加者の声（アンケート回答者：41名）

会議の満足度	<p>■とても満足 16名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3名の方のそれぞれの角度からの貴重なお話を聴かせていただき有意義な時間になったことと、グループディスカッションで各県（チームや障がい種別）のお話を共有することができたので。 ・他団体の活動を知れたこと、他チーム、他県の方々とグループワークで出会えたこと。 ・様々な事例を伺うことが出来、自分の地域や団体で何が出来るかという面で大変勉強になりました。それぞれ3つのプレゼンの中でも共通していた、「出来るところから無理せず取り組んでいく」点について、特に印象に残りました。できない理由を述べるのではなく、「どうしたら出来るか」、「何から出来るか」に着目して、ポジションにアクションを起こしていこうと感じました。ありがとうございました。 ・インクルーシブフットボールフェスティバルを開催したいと思っはいるのですが、どのようにやっていけばよいのか、見えていないことも多かったのですが、とにかく、やれるところから、というお言葉に力をいただきました。また隣県の情報も得ることができ、目標が見えて参りました。 ・いろいろな所属の方と話ができて、参考になることが、とてもたくさんありました。とにかく、多くの人を巻き込むことが必要だと思います ・全国の取り組み事例を知り、本県にも活かせることができそうだから ・各県での課題や悩みを聞くことにより、静岡県としても今後の向かう方向性が見えたことがよかった。 ・様々な取り組みを知る事ができました。また、ディスカッションでは全国での障がい者スポーツの現状を知る事ができました。 ・私たちの活動もインクルーシブとうたいながらの活動ですので、他障害多世代でされている他の地域の活動について聞くことができ勇気づけられました。
--------	--

	<p>■満足 23名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の同じ思いの方との交流が出来て良かったです。 ・意見交換の時間が10分ほど長くてもよかったかなと感じました。 ・インクルーシブのいろいろなやり方などを聴けたので良かったです。 ・登壇者の話で障がい者サッカーに関する具体的な取り組みなどを共有できたため。 ・静岡県サッカー協会やCPサッカーの現状、JIFFについて知ることができて良かったです。 ・インクルーシブフットボールフェスティバルについて知ることができた。 ・成功例の中に埋もれます、今までの歴史の積み重ねの中での課題、課題解決へのアプローチを詳しくお聞かせいただけたらと思います。 ・各団体の取り組みを聞くことができ参考になった。 ・様々な活動を知ることが出来て良かったです。 ・他の事案を伺ってOFAとしてどう落とし込めるかを考えるのに参考になった。OFAとしてもJIFFのインクルーシブフェスタを開催したいと考えています。 ・途中参加だったため、事例をすべて聞くことができなかつたが、グループディスカッションで他の団体の方の活動がわかって勉強になった。 ・事例を聞く機会が多いわけではないので、貴重な情報を知ることができた。 <p>■普通 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々と情報共有できて良かったです。
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションの時間をもう少し確保していただけると嬉しいです。参加したグループでは、途中で終わってしまいました。 ・JIFFの様々な取り組みにより、サッカー(スポーツ)かより身近になってきていると感じています。「だれも排除されない」、「違いを認め合う」、「一人として同じ人はいない」。サッカーを通した共生社会の実現に向けて、引き続きどうぞよろしくお願ひ致します。 ・グループで、金沢の方とお話出来て良かったです。今後連絡が取れればと思います。 ・今回、グループディスカッションで話をしていましたが、時間を気にしながら行っていました。各都道府県の皆さんの話を聞くことにより、実施したことによる課題や成果を共有できると思います。物理的な部分で仕方がない事だとは思いますがもったいない気もしました。 ・特にJクラブスタッフの出席の多さには驚きました。新しいフットボールの価値を認めることはJクラブのファン獲得につながると思います。ひいてはその発信力で全国的に障害の価値を替える力があると思いますし、障害のある方にとっては暮らしの楽しみが増えることになると思います。シャレンという文化の素晴らしさを感じました。ぜひ今後もJクラブに興味関心をもっていただけると幸いです。このような場を設けていただき大変勉強になりました。ありがとうございました。 ・グループディスカッションは楽しいし、情報共有もでき、勉強になります。 ・意見交換の時間がやはり短く感じてしまいました。それは参加者の皆さんのそれぞれのお話がとても興味深くもっと聞きたいと思ったからです。お互いの地域を応援し合える関係が日本中でできると、課題も解決できたり更に発展するのではないかと思います。次回もよろしくお願ひ致します。

障がい者サッカーを推進する組織・体制づくりについて、自組織やご自身でできること、やってみたいこと、既に取り組んでいること等		
東北	場づくり	秋田県には知的障がいのチームしかなく、他の種目に関しては、やりたいと思ってもなかなかできていない当事者の方が潜在的に存在している状況。その部分の声を拾って、まぜこぜな形で触れてもらえる場づくりをしていきたい。
関東	広報	本県の特徴を生かしたインクルーシブな場づくりを今後も発信していきたいです。
	場づくり	障がい者関連のイベントには積極的に参加したいと思っています
		Enjoyサッカーに障がい者に交じっての活動
		県内の障がい者サッカーチーム、県協会と話し合いながら、やってみようと企画してみました。 https://www.ventforet.jp/news/press_release/521430
体験会・大会の実施	健全者と障がい者が混ざり合っってサッカーをする機会、Jリーグクラブと連携してJリーグやWEリーグの試合前イベント(ウォーキングフットボール大会を開催予定)	
選手集め	9地域連携会議の影響もあるかと思いますが、最近、「地域のチームを探しています」という障がいを持つ当事者や保護者のご相談が増えてきました。地域の少年団やクラブへご紹介し、まざりあうためのマッチングも行っています。 リフレッシュ研修会障がい者サッカーコースで得た知見が、各チームに発信・伝達させて頂く上で、非常に役立っています。少年団・部活・クラブ等では、「受け入れたいけど、何をどう工夫したら良いかわからない」と踏み切れないケースが多いです。私達のような人間が間に入ることで、当事者・保護者・チーム関係者の橋渡しが出来ると実感できました。 自チームの事だけでなく、地域への橋渡しも重要な取り組みだと思っています。	
北信越	体験会・大会の実施	富山で20年に渡り、活動してこられたアミザーデサッカー実行委員会様との交流、今年は同じ主催側として運営の手伝いをしました。来年度も引き続き開催を目指すとともに、県サッカー協会が企画するインクルーシブフットボールフェスティバルを開催するため、先進県の情報を得たり、視察に行ったりしています。
東海	練習・試合	岐阜県内では2017年度から2019年度(2020年度は中止)までは、障がい者フェスティバルを開催する中で、まぜこぜ交流戦を実施している。電動車椅子、アンプティ、ブラインド、ソーシャル、CPの各団体やチーム・選手個々に参加していただいています。
		クラブ内で発達障害の子供たちとCPサッカーの子供たちの合同練習を行っております。

	体験会・大会の実施	現状静岡県では行われているパラフット体験会や、私たちのクラブの子どもと障がい者サッカーを掛け合わせた体験を行っていく。
関西	体験会・大会の実施	2018年にインクルーシブフェスタを開催しましたが、継続ができていません。
		東大阪市花園にはウェルチェア広場があるので、そこを活用したイベントを実施してみたいと考えております
	組織連携	協会としてはコロナ禍においてこの2年ほどはできてませんが、大阪FAと協力し他障害者サッカー団体と一緒に活動出来ていけばと思います。 HalfTimeとしては12年間『誰でも』『楽しく』『怪我なく』というコンセプトの元、月1-2回のごちゃまぜコサルを開催してきました。また2012年より年1回、様々な障害サッカー団体をはじめ学生・関西リーグクラブ・児童養護施設やジュニアサッカー等に参加してもらい500名規模の大会を開催しています。実行委員に障害当事者や学生に参加してもらい、地元企業やレッスン大阪さんに協力いただきながら進めています。工夫している点としては4カテゴリー作り初心者から競技性の方も含めて参加しやすい環境を整えていることです。
	その他	ソーシャルフットボールのチームですが、知的の方々の大会に出場させてもらったりしています。
中国	場づくり	今日は、17:30~19:00までインクルーシブサッカー教室でした。県障がい者スポーツ協会からの委託事業でしたが、このような他組織の連携を活用しながら、障がい者サッカーの普及や活動の場の発信をがんばってます。
		コロナが落ち着けば、リアルでのアダプテッドフットボールフェスタをカテゴリーを広げて再開したです。
	組織連携	皆さまからの学びも土台にして、岡山でも一步を踏み出すべく、関係の方々と話し合いをしています。
	体験会・大会の実施	ダレデモウォーキングフットボール
継続してウォーキングフットボール体験会を開催することで少しずつ参加者のみなさんとインクルーシブな時間や環境にみんなで触れています。 A-pfeile広島はウォーキングフットボールがあるので、インクルーシブな場所作りを行うためにはウォーキングフットボールがキーになるのかなと感じた。それにアンプティやブラインド、電動車椅子に関わる形が取れば良いと感じた		
四国	組織連携	人口の少ない県なので、全ての障害種別ごとの活動は難しいですが、既存のチームとのコミュニケーションは取れています。情報共有やイベントの共催もできています。チームが成立しない障害についても、支援学校や放課後デイ等の事業所の児童をイベントに招待するなどしてコミュニケーションを図っています。

		関りが強い部門（デフサッカー）だけであるが、県からも協力して頂き合宿の開催や講演会を開催するなどの活動を通じての普及を実施。
	体験会・大会の実施	約10年前から子供と大人の方対象に障がい者支援をおこなっているが、次は前座でヴォルティスのスクール生と一緒にサッカー教室などをおこないたい。
九州	体験会・大会の実施	企業を入れて障害者大会を開催している。
		知ってもらう事が大事と思うので体験会など続けていきたい。
		インクルーシブスポーツフェスタのスモールスタートを切りたいと思っています
		学生を対象にイベントを実施した。今後はJリーグチームの強みを生かして子供達向けに体験会を開きたい。実際に選手がいない競技に関しての体験会や触れ合う機会が少ないので機会を作ってあげたい。
その他	練習・試合	聴覚障害サッカーの方々と(健常者も含めて)練習試合などさせていただいています。
	体験会・大会の実施	愛知県では、毎年障がい者フェスタを実施されている。

自組織やご自身が障がい者サッカーを推進する組織・体制づくりをする上で感じている課題		
東北	場所確保	とにかく距離がある。冬期間はさらに厳しい。
関東	広報	少しずつ落ち着いてきているがコロナ禍の状態ではリアルな開催・経験が不足しがちなので、状況を見ながら少しずつできる形で発信していきたいです。
		当事者のリアルをいかに落とし込むか。 スポーツに興味のない、自力では参加できない障がいを持った方に参加していただき、少しでもプラスに感じてもらう流れをつくること。
	場所確保 人材不足	当事者のリアルをいかに落とし込むか。 スポーツに興味のない、自力では参加できない障がいを持った方に参加していただき、少しでもプラスに感じてもらう流れをつくること。活動場所の確保、スタッフ人数
	選手集め	障がい者だけでチームが編成できない。
	その他	所属団体・連盟の組織づくり(コンプライアンス・ガバナンスに沿った健全な組織づくり)に着手していますが、クリアしなければならない項目も多く、ハード面の整備も必要だと感じています。障がい者スポーツも、福祉

		<p>からスポーツ文化へ転換していく段階に来ていると感じています。私達指導者自身が、学び続け、アップデートしていくことで、選手や子どもたちにより良い環境が提供できると思います。</p> <p>また現在、知的障がい者女子サッカーを担当・指導していますが、知的障がい者女子サッカーの普及、選手育成、指導者の養成等、環境面の整備が課題となっています。様々な方々のお力をお借りしながら、今後普及させていきたいと思っています。</p>
北信越	障がい者理解	今まで、障がい者の方との交流があまりなく、接し方など「失礼」に当たらないかなど、不安な思いをすることが多いことです。
東海	組織連携	障がい者団体との横のつながりがまだ確立できていないため、しっかりと構築していく必要がある。
		みんな一緒に楽しくやる事。
	障がい者理解	組織というより、自クラブ保護者の理解が必要だと思っています。静岡県としては瀬戸協代表を筆頭に活動できていると思います。
関西		どれだけ人を巻き込めるか、OFAとしての体制を考えていきたい。
	組織連携	たくさんありますが、組織化することの難しさと継続することです。中心となるメンバーがライフスタイルの変化とともに変わっていくことがあるので、継続できる形を常に模索しています。ヒト・モノ・カネ・フィールドのマネジメントが欠かせないなと感じています。
	障がい者理解	当事者のニーズを聞かないといけないのではないかと、という課題は感じます。
中国	選手集め	県内の障がい者サッカーやスポーツをする人が少ないため、どのように仲間を増やしていくかが課題である。
	広報	イベント等の広い告知と動員の難しさ。
	障がい者理解 場所確保	日本では、環境が区別する部分が根付いていると思うので混ぜこぜと言っても、ハード面もしっかりお互いが繋がる機会も少ないと感じる
	障がい者理解	場所や環境により、活動しづらい人がいた場合、どのように場の中に入ってもらえるか。障がい者の理解がない子ども達の素直な意見が、障がい者の心を傷つけないか。また、大人も同様。今、参加されている人にはないが、もし、理解してもらえないインクルーシブの考え方の人がいた場合、どのように対応すべきか。
	場所確保	月一回程度の体験会だと参加者が集まりやすい分細やかなフォローができてないこともあるので、体験会を増やして分散したいと思いますが、会場の手配が困難です。フットサルコートは条件がいいですが、費用負担が重くのしかかるので、手軽にみんなでボールを蹴ることが難しく感じてしま

		います。コロナ感染対策があるため条件も厳しくなってしまいます。
	その他	広げるまでは内輪のイベントとなるので、内輪だけで満足しないような馬食釣りをしていく必要があると感じた
四国	広報	ウォーキングサッカー等を一緒にやろうと企画して呼びかけても障がい者の方に届かない。アプローチ方法がない。
	人材不足	ボランティアのため、活動に制限（時間・費用）があるため、思っている活動が出来ない。
	組織連携	ソーシャル以外の方との人脈作り
九州	場所確保	場所の確保や親の気持ちなどが課題かなと思います。
	組織連携	課題ばかりなのですが、まずは仲間づくりから始めたいと思います 他の障害者スポーツの団体との話し合いの場があまり多くない。
その他	組織連携	瀬戸脇さんも仰っていましたが、まずは関係出来る所(障害種別)から輪を広げてゆけるといいと思います。
		それぞれの7団体との連携強化が必要。県内だけではなく県外とも。

2-3. 障がい者サッカーチームづくりや障がいに応じた場づくり

①会議概要

開催日時	2021年10月28日（木） 18:30～20:00
開催方法	オンライン（Zoom）
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 2. プレゼンテーション・質疑応答 ①瀬戸脇正勝氏 （静岡県サッカー協会／静岡県知的障がい者サッカー連盟） ②前鼻啓史氏（日本アンプティサッカー協会） ③鈴木知佳氏（日本ブラインドサッカー協会） 押上誠氏（島根オロチビート浜田） 3. グループディスカッション 4. ディスカッション概要共有・クロージング
参加人数（実数）*	69名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

JFA	2 名
9地域サッカー協会	0 名
都道府県サッカー協会	25 名
Jリーグクラブ／Jリーグ 百年構想クラブ	11 名
その他サッカー関連団体	1 名
アンプティサッカー	1 名
CPサッカー	1 名
ソーシャルフットボール	9 名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	2 名
電動車椅子サッカー	4 名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	3 名
デフサッカー／ デフフットサル	0 名
その他障がい者サッカー 関連団体	4 名
JIFF	4 名
合計	69 名

②会議内容

プレゼンテーション内容	
瀬戸脇正勝氏（静岡県サッカー協会／静岡県知的障がい者サッカー連盟）	静岡県内でのJリーグと連携しながらのチームづくり、活動の場づくりについてお話頂きました。
前鼻啓史氏（日本アンプティサッカー協会）	JAJFAが開始した「チーム創設支援制度」を活用したチームづくりの実例、スタートアップについてお話頂きました。
鈴木知佳氏（日本ブラインドサッカー協会）	JBFAから「アクサ 地域リーダープログラムwithブラサカ」を利用したチームづくりとチーム立ち上げ事例について、その中での好事例

拝上誠氏（島根オロチビート浜田）

として島根オロチビート浜田からチーム概要とこれまでの活動内容をお話頂きました。



ディスカッション後の共有

グループで集まったメンバーでまた違う機会が集まろうという話しがでてとても雰囲気よかった。また秋田の方はチームを作るといことも口にされていた。

今日をきっかけにチームの立ち上げなどに関心のある方は登壇者にぜひ連絡してほしい。また、同じグループで話した方などもSNSなど通じて繋がっていききたい。

各団体でフェスティバルやイベントができていたことがわかったので、今後はより日頃の活動に力を入れていく必要があると感じた。それを継続するには日頃の横の繋がりが大切になるので、各ステークホルダーと連携をしていかなければならない。

③参加者の声（アンケート回答者：28名）

会議の満足度

■とても満足 13名

- ・新たな繋がりができました。継続してチームを運営していく中で様々な障がいがあります。今回、そのノウハウを聞かせて頂く機会を頂き今後のチーム運営に活かしていきたいと思えます。
- ・チームの立上げ方法やそれに伴う課題の解決策等大変参考になりました。チーム、協会の取り組みについて知ることができ大変有意義な時間でした。
- ・自分が関わっている団体ではなかったもので、知らない部分が多く現状が知れて良かったから。
- ・地域リーダープログラムの詳細をグループディスカッションで伺うことができ素晴らしいプログラムだと知りました。徳島県でも他障害のサッカーチーム結成にかかわってもらえそうな人にぜひ参加してもらいたいです。
- ・私自身チーム発足後に関わりだしたので、チームを作る立場の苦悩やそれに対する組織の援助がどのように行われているのかを知ることができてよかった。

■満足 12名

- ・全国には、継続的がんばっていらっしゃる方がいる。
- ・全国各地の活動、振興状況がわかるし、繋がっていける場だと感じました。
- ・具体的話でイメージがしやすかったです。
- ・興味深い内容でしたが、ボリュームが多かったので、もう少しゆっくり講義を聞けると嬉しかったです。
- ・チーム立ち上げの課題や、静岡の取り組みがわかったこと。

	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム設立に向けて各障がい者サッカー協会の制度、工夫していることを共有していただき、鹿児島FAでの取り組みにも活かせると思いました。 ・本県の現状と離れ過ぎて参考にするのが難しい。一方で、最後に良いヒントをもらうことができた。 <p>■普通 3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な報告の機会をいただき有り難うございました。 ・グループ別ディスカッションが途中で終了してしまいました。
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な機会をいただきありがとうございます。学びと関係づくりの場として、また今後も定期的で開催していただけると嬉しいです。 ・3回のワークショップを通して、これからやりたいこと、やらなければならないこと、たくさん頭に浮かんでいます。またいろいろとご相談、ご質問、させていただきます。よろしくお願いたします。 ・今後もグループディスカッションを取り入れていただけたらと思います。輪が広がり、つながりもできました。3回とも参加させていただきました。ありがとうございました。 ・定期的に意見交換できる機会を持っていきたいです。いまはJIFF様に頼りっぱなしですが、．．．とは言え、また機会をつくっていただけると幸いに存じます。このたびはありがとうございます。 ・3回のワークショップを通して他県、他競技、他チームの動向を知れて良い機会となりました。聞いて終わりではなく、自チームでも新たに組み組めることを取り組んでいかなければいけないと感じました。 ・またこのような学びの場や全国の方との交流の場が持てる機会がありますと幸いです。ありがとうございました。 ・サッカー協会のインクルーシブ委員会が始動しましたので、情報共有ができて活動が活発になることが期待できます。これからもよろしくお願いいたします。 ・自協会では年1回のフェスティバルで障がい者サッカーの体験会を行っているが、短期間での継続した取り組みを行っていないため、ネットワークの構築がなされていない。継続的に会合等を開催する必要があると感じた。鹿児島国際大学で「障がい者スポーツを通じた共生社会の実現に向けた人材の育成」を目的に学生を対象としたイベント、ワークショップが継続的に行われている。大学とのコラボも面白いと思った。

障がい者サッカーを推進する組織・体制づくりについて、自組織やご自身でできること、やってみたいこと、既に取り組んでいること等		
北海道	体験会・大会の実施	現在小学校や高校に体験会を行っていて、ブラインドサッカーを通じて視覚障がいに限らず様々な障がいに対する認識を深めて頂きたいと思って取り組んでいます。ただ、サッカー協会との連携がなかなかできていなかったため、今回の研修会をきっかけにもっと間口を広げてこの取り組みができればと思います。
	選手集め	障がいがある選手を探す為の方法を模索しています。地域の障がい者団体と繋がることに意欲的に取り組んでいます。
北海道	体験会・大会の実施	現在小学校や高校に体験会を行っていて、ブラインドサッカーを通じて視覚障がいに限らず様々な障がいに対する認識を深めて頂きたいと思って取り組んでいます。ただ、サッカー協会との連携がなかなかできていなか

		ったので、今回の研修会をきっかけにもっと間口を広げてこの取り組みができればと思います。
	選手集め	障がいがある選手を探す為の方法を模索しています。地域の障がい者団体と繋がることに意欲的に取り組んでいます。
東北	チームづくり	秋田県で新規立ち上げをします！
	その他	3回の会議で刺激を受けたので、いろいろ動き出しました。
関東	場づくり	所属している横浜F・マリノスフットワークは現在中学生以上を対象としています。今後、小学生に向けた部分も実施していく方向で動いている。小学生はスポーツをする環境が少なく、困っているので対象の子どもたちにサッカーをする環境を作っていきたいと思っています。
北信越	組織づくり	主として知的障がいの方の活動環境づくりに取り組んでいる。現在は県障がい者スポーツセンター職員としての立場も活かしながら、教室・大会の企画・運営、チーム（保護者主体のサークル）作りのサポートや選抜チームの活動の事務局的な業務等に携わっており、今後は知的障がい者サッカーの競技団体設立を目指したい。
東海	組織連携	障がい者サッカーへの指導者派遣や施設使用の提供など含め、静岡FIDサッカー連盟と協力しながら進めていきたいと考えています。
関西	場づくり	継続的なトレーニング及びトレーニングマッチ、大会などイベントへの参加機会の提供。
中国	組織連携	今は形ができている組織にいるのでそのできている形をどのように続けていくかが今後大切になってくるのではないかと感じた
	体験会・大会の実施	障がい者サッカーをピンポイントで進めることも必要ですが、きっかけを求めている人達にまずは太陽の下へ出てきて笑い合える環境を作る事が大切だと思います。個人レベルでの交流を少しずつ広げて次の人へバトンタッチできる環境を作っていきたいです。その取り組みとしてウォーキングフットボールがツールとしてあります。A-pfeile広島としてインクルーシブな環境作りはぶれずに広島県内へ広めていきたいと思っています。
四国	チームづくり	他障害の方にも徳島ヴォルティスコーチによる精神障がい者の練習会に参加してもらっています。今後は、支援学校に働きかけて他障害のチーム作りも検討したいと思っています。
	人集め	まずは選手、指導者、サポートスタッフ等の人集めから始めたいと考えています。
九州	人集め	障がいのある無しに関係なくいろんな人を巻き込むこと
	組織連携	県全体で話し合いをもつことに。 チームづくりについて現在FAとしてやっている取り組みがなく、まずネットワークの構築に取り組むたいと感じた。

その他	その他s	<p>【協会】規定についてのヒアリング等を機に各地域と意見交換するオンラインミーティングを実施しています。各地域の状況を伺い、今後の協会の取り組みに繋げていく方向です。</p> <p>【自チーム】大阪府下の講習会・大学等との連携イベントを実施しています。</p>
-----	------	---

自組織やご自身が障がい者サッカーを推進する組織・体制づくりをする上で感じている課題		
北海道	組織連携	サッカー協会との連携
	選手集め	若い視覚障がい者と繋がること（盲学校以外で）
東北	その他	課題はたくさんありますが、頑張ってみます。
北信越	人材不足 資金難	知的障がいの方の活動にあたっては移動や費用面、またチームの運営等でサポートが必要な当事者が多く、支えるマンパワーが不足している。また、地方の現状として当事者の人数が少ないこと、高齢者も進んでいることから、活動したくても身近な地域に同様のニーズ・環境が少なく、遠方まで出向かなければならない等の制約がある。
	人材不足	いつも感じるのですが、携わっている人がまだまだ少ないです。とにかく、多くの人を巻き込むように考えていきたいです。
関西	人材不足	担い手の不足、情報の共有・周知の希薄さ
	選手集め	参加人数のバラツキ。
中国	場づくり	距離が遠くて活動に参加できない人に対しての場づくりが必要ではないかと感じた
	体験会・大会の実施	A-pfeile広島WFCは参加者が多くなる時もあるので、もう少し縮小しての開催も検討しているが、会場費が負担となり障がいを持っている参加者に我慢させているのではないかと思います。
四国	選手集め	対象の人数が少ないこと。会場が一つでは地理的に参加が難しい。
	組織づくり	協会のインクルーシブ委員会の組織をしっかりと作り上げること。
	組織連携 選手集め	他の理事役員の理解と協力を得ること、障害者へのアプローチ手段がないこと
九州	選手集め	サッカーをしようという人が少なくなっている。
	人材	マンパワー、ネットワークが不足している。本気で取り組む人が存在しない。
その他	組織連携	【協会】全国規模では、各地域毎の事情があり、全体に平等というラインを示すことの困難さを感じています。その為には、各地域と繋がりが必要

ですが、オンラインミーティングだけでは伝えきれないこともあり、ボランティアでの協会運営に限界を感じる場合があります。

【自チーム】立ち上げメンバーはエネルギーがありますが、次世代の確保・育成の難しさを感じています。

(3) 報告会

①会議概要

開催日時	全3回実施 ①2022年1月13日（木） 18:30～20:00 ②2022年1月14日（金） 18:30～20:00 ③2022年1月25日（火） 18:30～20:00
開催方法	オンライン（Zoom）
スケジュール	1. ごあいさつ・本報告会について 2. 各団体によるご報告 3. クロージング
発表者	<p>■第1回</p> <p>【北海道】井上誠士郎氏 （北海道精神障害者スポーツサポーターズクラブ 代表）</p> <p>【茨城県】今橋寿彦氏 （茨城県サッカー協会 インクルーシブ委員会 技術委員長）</p> <p>【埼玉県】佐藤雄二氏 （埼玉県サッカー協会／埼玉県障害者スポーツ協会 副会長） 小沼航士氏（大宮アルディージャ クラブビジョン推進室）</p> <p>【福井県】永棹稔氏（福井県サッカー協会 グラスルーツ委員長 ／常務理事 兼 事務局長）</p> <p>【鹿児島県】西真一氏（鹿児島県サッカー協会 常務理事）</p> <p>■第2回</p> <p>【神奈川県】河野雅道氏（神奈川県サッカー協会 専務理事）</p> <p>【石川県】辰巳義和氏（石川県サッカー協会 グラスルーツ委員長）</p> <p>【徳島県】岡崎恵氏（徳島県サッカー協会 インクルーシブ委員長）</p> <p>【愛媛県・四国】菅英希氏（愛媛県サッカー協会 インクルーシブ 委員長／四国サッカー協会 インクルーシブ委員）</p> <p>【沖縄県】坂本瑞枝氏 （沖縄県サッカー協会 障がい者サッカー委員長）</p> <p>■第3回</p> <p>【静岡県】徳増五郎氏（静岡県サッカー協会 チャレンジド委員長）</p> <p>【富山県】片貝仁子氏（富山県サッカー協会 副会長）</p> <p>【岡山県】小玉京士朗氏 （岡山県サッカー協会 障がい者サッカー担当）</p> <p>【佐賀県】内田研治氏 （佐賀県サッカー協会 障がい者サッカー委員長）</p> <p>【長崎県】濱本成一氏（長崎県サッカー協会 事務局長）</p> <p>【大分県】松尾卓也氏（大分県サッカー協会 理事 ／大分県障がいサッカー協会 会長）</p>
参加人数（実数）*	延べ132名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

JFA	6名
9地域サッカー協会	4名
都道府県サッカー協会	65名
Jリーグクラブ/Jリーグ 百年構想クラブ	15名
その他サッカー関連団体	0名
アンプティサッカー	3名
CPサッカー	2名
ソーシャルフットボール	10名
知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル	2名
電動車椅子サッカー	3名
ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル	8名
デフサッカー/ デフフットサル	4名
その他障がい者サッカー 関連団体	5名
JIFF	5名
合計	132名

②会議内容

第1回プレゼンテーション内容	
【北海道】井上誠士郎氏（北海道精神障害者スポーツサポーターズクラブ 代表）	道内の障がい者サッカーチームと連携・交流状況、ソーシャルフットボール活動などについてお話頂きました。
【茨城県】今橋寿彦氏（茨城県サッカー協会 インクルーシブ委員会 技術委員長）	FA内の委員会のビジョン、Jリーグクラブや障がい者サッカーチームとの取り組み内容、イベントなどについてお話頂きました。
【埼玉県】佐藤雄二氏（埼玉県サッカー協会/埼玉県障害者スポーツ協会 副会長） 小沼航士氏（大宮アルディージャ クラブビジョン推進室）	県内での連携ネットワーク会議の発足、会議メンバーが協力したWEリーグクラブでの体験イベントなどについてお話頂きました。
【福井県】永棹稔氏（福井県サッカー協会 グラスルーツ委員長/常務理事 兼 事務局長）	県内での障がい者サッカーの現状と今後の取り組みなどについてお話頂きました。
【鹿児島県】西眞一氏（鹿児島県サッカー協会 常務理事）	県内での障がい者サッカーの取り組み、連携会議、今後の取り組みとしてFA内での委員会設置などについてお話頂きました。
第2回プレゼンテーション内容	
【神奈川県】河野雅道氏（神奈川県サッカー協会 専務理事）	県内の全Jリーグクラブおよび7つの障がい者サッカーチームと連携して開催したインクルーシブフットボールフェスタ、指導者講習会などについてお話頂きました。

【石川県】辰巳義和氏 (石川県サッカー協会 グラスルーツ委員長)	県内の障がい者サッカー活動、連携会議、実施したイベントなどについてお話頂きました。
【徳島県】岡崎恵氏 (徳島県サッカー協会 インクルーシブ委員長)	県内の障がい者サッカー活動、日本代表合宿の誘致、普及啓発イベントなどについてお話頂きました。
【愛媛県・四国】菅英希氏 (愛媛県サッカー協会 インクルーシブ委員長/四国サッカー協会 インクルーシブ委員)	愛媛県および四国内の障がい者サッカーの現状と活動などについてお話頂きました。
【沖縄県】坂本瑞枝氏 (沖縄県サッカー協会 障がい者サッカー委員長)	県内の障がい者サッカーとその取り組み、沖縄県障がい者サッカー連盟設立などについてお話頂きました。
第3回プレゼンテーション内容	
【静岡県】徳増五郎氏 (静岡県サッカー協会 チャレンジド委員長)	県内の静岡FAと障がい者サッカーの連携および活動、各障がい者サッカー団体と支援者の連携、研修会、体験会、フェスティバルについてお話頂きました。
【富山県】片貝仁子氏 (富山県サッカー協会 副会長)	県内の障がい者サッカーの現状、ネットワークづくりと組織体制、新ビジョンなどについてお話頂きました。
【岡山県】小玉京士朗氏 (岡山県サッカー協会 障がい者サッカー担当)	県内の地域連携会議、障がい者サッカー活動などについてお話頂きました。
【佐賀県】内田研治氏 (佐賀県サッカー協会 障がい者サッカー委員長)	県内の障がい者サッカーの現状と取り組み、今後の課題とレガシーなどについてお話頂きました。
【長崎県】濱本成一氏 (長崎県サッカー協会 事務局長)	県内の障がい者サッカーの現状、きらめきカップなどについてお話頂きました。
【大分県】松尾卓也氏 (大分県サッカー協会 理事/大分県障がいサッカー協会 会長)	県内の種別ごとの障がい者サッカーの現状、連携会議、ごちゃ混ぜサッカーなどについてお話頂きました。

③参加者の声（アンケート回答者：63名）

<p>会議の満足度</p>	<p>■とても満足 24名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各団体の具体的な取り組みがわかりました。意欲的に取り組んでいるチームを見るとモチベーションが上がります。 ・各地で、Jリーグチームを交えていろいろなイベント開催をしているなどの話が聞けて、良かったです。 ・他地域の活動状況が聞けた大変良い機会でした。 ・茨城県の取り組みに圧倒されました！ ・各団体のイベントを知ることができ、インプットになった。 ・以前から気になっていた富山の「アマザーデサッカー大会」や各県で行われている「ウォーキングフットボール」の話が聞けて良かったです。 ・報告がどれも具体的かつ詳細で大変勉強になった。 ・各県の情報を聞けるのは、嬉しい。またどんなイベントが行われているのかを知ることが出来てよかった。 ・Jクラブの関りが少しずつ表に出てきていることが嬉しく感じました。サッカーに関わる全ての人が共有すべきことだと思っています。エスパルスとしても、各都道府県と他クラブの関りをいろいろと学ばせていただきたいと思いました。 <p>■満足 33名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各県での取り組みが以前より増えてきたことが、障がい者サッカーが認知され始めた証として感じる事ができた。 ・目に見える障害については、アピールしやすいのか、と感じた。「精神」も誰にでもあるはずなのに、茨城、埼玉、鹿児島に活動に入っていないことに寂しさを覚えた ・他地域の現状が把握でき、自地域の置かれている位置や課題を改めて整理することができました。 ・他県のような取り組みを聞くことができ、課題や今後の改善点など参考になった。 ・各FAの動き、各地域での活動がわかってよかった。 ・Jクラブをはじめ、いろいろな機関、団体と連携しながら事業を行っていて、大変参考になりました。自分の発表で、写真も入れることができず（何枚かあったのに）、それが自分に不満でした。 ・自分が居住する県以外の、他県他地域の障がい者サッカーの活動状況や様子を知ることが出来、とても興味深かった。 ・それぞれの地域での活動内容を知ることが出来て、大変参考になりました。色々な方法があることがわかり、その中で、自組織に合うものをこれから模索していきたいと思いました。 <p>■普通 6名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容は問題無いが参加者やテーマが広すぎる気がする。 ・当会の課題とは合わなかった。 ・望む情報がなかった。 ・回数が多すぎではないか。 ・現状の各都道府県の活動状況を伺うことができよかったです。
---------------	--

<p>興味関心を持った内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Jクラブの関りが気になりました。もう少しJクラブがいろいろな部分で関わってほしいと思いました。 ・公認指導者研修会も開催したいと思います。 ・沖縄県の車いすサッカーに興味を持ちました。ルール等電動車椅子サッカーと異なると思いますが、何かの形でコラボできれば良いと感じました。 ・①茨城県FAの「普及」「強化」「指導者養成」の『育成』を基盤とした考え方、②鹿児島FAの「新春ドリームサッカー」の内容構成。 ・北海道の井上誠士郎先生の取り組みが、コツコツと積み上げてきた活動として参考になった。広大な土地、冬の厳しさもあるなかで、確実に周囲とつながっている。 ・神奈川県Jクラブを巻き込んだ活動 ・障がい者サッカー委員会など県FAからの予算で活動を賄えてるのか。指導者講習会。 ・Jリーグチームと協同での取り組みについて参考となりました。 ・JFA公認指導者研修会〔障がい者サッカーコース〕の開催を検討していきたいです。 ・茨城県の取り組みです。活動場所がJクラブを中心に確保され、取り組みが単発ではなく無理なく継続されていることに凄みを感じました。 ・埼玉県障がい者サッカーネットワークが毎月会議を開催など活動されていて、その中にJのクラブが積極的に参画されている様子が伺われて羨ましかぎりです。 ・指導者研修会・障がい者サッカーコースを近いうちに開催したいと思いました。 ・愛媛県や石川県がやっていたように、知的障がい者のチームがシニアやU-15のリーグに参加しているのが面白かった。本県でも考えてみたい。 ・企業との関係の取り方(研修会を提供することで、障がいのある方の行きつく社会の理解を拓ける啓蒙活動につながり、進路の開拓にもつながる可能性が出てくる可能性がある。) ・佐賀県の話だったと思いますが、知事同士で積極的にコラボを考えている部分が素晴らしいですね。私たちの県でもこのような活動ができれば、さらに加速すると感じました。 ・ごちゃまぜサッカーの実施普及が多く、是非参考にさせて頂きたいと感じました。また、イベント等の財源の確保について検討する必要も感じました。 ・全般を通して、事業を推進していくためのネットワークや部門の構築につながるような取り組みやきっかけがそれぞれどのようなものであったかという部分について非常に興味があり、先進FAの様々な事例を拝聴でき大変参考になりました。 ・寄付を募り寄付が集まる静岡県様の活動風土は、さすがと思われました。これまでの活動の歴史の成せるところでもあるかと。素晴らしいです。
<p>気づいた点、感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域、各チームと繋がりやすくなるために連絡先を共有できるとありがたいです。 ・リフレッシュ研修で47FAのすべての県で、障がい者サッカーコース実施をめざしたいと改めて思いました。 ・インクルーシブ委員会が発足したばかりなので、JIFFでできることを今後把握し、ご協力お願いしたいと思います。 ・開催回数が増えるにつれて、他のチームとの繋がりが持てそうなことに期待しています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・Jチームも障がい者支援をおこなっているが、まだまだチーム事情にもよるが、年間を通してのイベントやサッカー教室などの継続は少ないと感じた。 ・イベント開催が目的やゴールにならないことに期待します。 ・コロナ禍とはいえ、必要としている方がいるので障がい者サッカーの取組は大事と思っています。なので、今回のような機会は大変有難いです。 ・熱意あるリーダーを見つけること、そのリーダーと共に動くグループを作ること、から始めなければならないという点。 ・今後、各地の取組を集約して、47FAにフィードバックすると良いと思いました。 ・いつもこのような貴重な機会をいただき、他県の取り組みや情報交換、つながりなどをいただき、とても有意義な時間になっていること、心から感謝しております。誠にありがとうございます。 ・今回のようなインプットのみの会議もありがたい。 ・全体的に前向きな活力にあふれていて魅力的だった。
<p>運営、開催形態、話す内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国をZOOMで繋ぐことは効率が良いと思います ・18：30は、帰宅時間にも差し掛かるので、開始時間を考えてほしい。あと、連携自体は、それぞれでやってくれと投げられている感じがしました。 ・仕事が終わった後の時間であること、90分という内容であることで参加し易かったです。 ・発表者からの逆質問をするような形式をとっても良いのではないかと感じました。 ・定期的な開催を臨みます。 ・WEB形式というのは、どうしても質問しにくかったり、一方向になりがちになってしまうので、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたタイミングでもいいので、実際に会ってディスカッションなどをしてみたいと感じました。 ・全国の取り組みが聞けるので良かった。ただ、リモートだと直接話が聞きにくいので、できれば対面もやってほしいです。（コロナが落ち着いたら）
<p>その他要望等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・別の機会でもグループワークみたいな会議ができるといいなと思いました。 ・コロナ禍でオンラインが通常となりつつあり、これをポジティブに捉えた活動をしていきたいところです。しかし、実際はコロナ対応に追われ、本業との両立で厳しくなるなどまだまだマンパワーも必要なので、関わる人から楽しめる方法を模索し、普及していきたいと思います。このような機会に刺激をいただけるので、感謝です。他のメンバーとも共有させていただきます！ ・インクルーシブフットボールコーチの資格取得をするための情報を提供していただければと思います。 ・OFAで体制作りを進めています。2022年度に向けてどう動いていけばよいかまた相談できればと思います。 ・新潟でもパラサッカーフェスタを以前は開催していて、その中で我々はブラインドサッカーの体験コーナーを任されて実施していましたが、その後のフォローが無く中々広まらないのが寂しい限りです。 ・当協会としてこの分野は特にカテゴリー化していないが、頼まれごとは今まですべて対応してきた。特にこちらとしては困っていないが、福岡県内の障がい者サッカー関係の機関で相談があるのであれば、訪ねてくれればいいのと思う。JFAが47FAに様々な案件を落とし込むようにJI

	<p>FFから各県の機関に促したりしないのかなと思う。困っているのであれば、そのようなアクションを起こせばいいのでは？事務局の方々は健常者の方が担っているのであれば、是非、検討いただきたいと思う。当FAは門戸を閉ざしているわけではないので。ただ、あえて言わせてもらえば、現状の事業を管理するので精一杯な状況でもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー人口を増やすために、できることを増やしていく必要がある。 ・2020年の9地域で取り組んだ県内の横のつながりが今回、イベントまで取り組めました。これも、最初のつながりを見出すきっかけが無かったら出来なかったことと思います。きっかけを作って頂いたJIFFに深く感謝申し上げますと同時に継続して取り組めるように努めていきたいと思っています。有難うございました。 ・東北地域、さらに青森県という地域柄なのか土地柄もあるのか、まだまだ障がい者スポーツに関しての情報を集めるとなると難しい部分が出てきます。 ・障がい者スポーツは、地域という枠を越えて、全国的につながりを持っているようなイメージがあるので、「実はこの県と交流があります。」などの情報もあったら嬉しいです。 ・宮崎県も単独のチームが無く、2027年の全障大会に向け、県障がい者スポーツ協会と連携しながらチーム作りをやっているところです。 ・参加だけで、圧倒され、質問まではできませんでしたが、佐賀県発表の内田氏には、労う感想とともに、今後の動きや勧め方にもコメントを差し上げました。ありがとうございました。 ・このような機会を設けていただきJIFFのみなさま、ありがとうございます！引き続き、ご指導賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。
--	--

Ⅲ. 成果

2021年度の9地域障がい者サッカー連携会議は、地域特性と競技特性を重視しながら、その課題を持つ地域だけではなく様々な立場の方からの意見やアイデアを収集するとともに、都道府県サッカー協会（地域が主体の場合は地域サッカー協会）が中心となり各都道府県または地域主導で会議を実施し、各団体が連携した活動計画と実行までを促してきた。

具体的には、2021年度の進め方に関する方針発表と基本的な障がいや障がい者サッカーの知識についての勉強会を兼ねた「全体会」にはのべ294名が参加し、共通課題である障がい者サッカーを推進する組織・体制づくり、インクルーシブな場づくり、障がい者サッカーチームづくりや障がいに応じた場づくりについてのナレッジ共有の場として開催した「課題別ワークショップ」にはのべ268名が参加した。各都道府県または地域主導での連携会議実施後の2021年活動報告と2022年活動計画の共有の場として開催した「報告会」にはのべ132名が参加した。

これらの取り組みにより、①障がい者サッカーを推進する組織や会議体等の増加、②ネットワークを通じた様々な活動の創出の2つの成果を得ることができた。

1. 障がい者サッカーを推進する組織や会議体等の増加【障がい者サッカーネットワークの構築】

本連盟の設立当初（2016年）はゼロであった都道府県単位での組織や会議体が、47都道府県のうち30都道府県まで増加した。2020年度からの1年間では、21都道府県から30都道府県に増えた。

組織の作り方としては地域に応じて様々で、都道府県サッカー協会の中にグラスルーツ委員会、チャレンジド委員会、インクルーシブ委員会などの名称で設置されていたり、別組織として法人化された組織や会議体がある。障がい者サッカー関係者が都道府県サッカー協会の役員に就任する事例も増えてきた。



2. ネットワークを通じた様々な活動の創出【地域に応じた障がい者サッカー活動の推進】

主な事例としては、岡山県では9地域障がい者サッカー連携会議をきっかけに「岡山県障がい者サッカー連携会議」が発足し、2ヶ月に1度の頻度で会議が行われている。その会議の出席メンバーに加えて近隣の大学も巻き込み、2021年12月に初めて県内の組織（都道府県サッカー協会、Jリーグクラブ、障がい者サッカーチーム等）が連携してイベントが開催された。

埼玉県では、9地域障がい者サッカー連携会議をきっかけに「埼玉県障がい者サッカーネットワーク」が発足し、月1度の頻度でオンラインで会議を実施している。その会議をきっかけに、関係者協力のもと県内のWEリーグクラブによるリーグ理念推進日「WE ACTION DAY」に障がい者サッカー体験会と勉強会が開催された。

神奈川県では、9 地域障がい者サッカー連携会議をきっかけに、神奈川県サッカー協会主催のもと、2021 年 10月に県内の全 Jリーグ 6 クラブ、7つの障がい者サッカーチームが協力し「インクルーシブフットボールフェスタ」を開催した。その準備の一環では、障がい理解を深めるために、日本サッカー協会の公認指導者研修会[障がい者サッカーコース]を実施した。

このような、様々な取り組みが全国で創出されてきている。

**【中国】岡山県
岡山県サッカー協会より**

**岡山県障がい者サッカー連携会議を
きっかけに初の障がい者サッカー
イベントを開催**

2019年度・2020年度の「9地域障がい者サッカー連携会議」に参加。翌年から2ヶ月に1度、オンラインで岡山県サッカー協会、フアジアーノ岡山、県内の障がい者サッカー関係者らによる「岡山県地域障がい者サッカー連携会議」開催に発展し、同会議メンバーの他、大学も交えて2021年12月にイベントを初開催した。



**【関東】埼玉県
埼玉県サッカー協会より**

**埼玉県障がい者サッカーネットワーク
が発足し、関係者協力のもとWEリーグ
理念推進日にイベントを実施**

2019年度の「9地域障がい者サッカー連携会議」を契機に「埼玉県障がい者サッカーネットワーク」が発足し、月1度オンラインで連携会議を実施。メンバーである大宮アルディージャVENTUSの「WE ACTION DAY」に県内の障がい者サッカーチームが協力し体験会と勉強会を開催し、現役選手も多く参加した。



**【関東】神奈川県
神奈川県サッカー協会より**

**障がい者サッカー指導者講習会と
インクルーシブイベントを組み
合わせて開催**

2020年度の「9地域障がい者サッカー連携会議」を契機に、神奈川県サッカー協会主催のもと、2021年10月に県内の全 Jリーグ 6クラブ、7つの障がい者サッカーチームが協力し「インクルーシブフットボールフェスタ」を開催。その準備の一環で、障がい理解を深めるため、JFA公認指導者研修会[障がい者サッカーコース]を実施した。



おわりに

2019年度からの継続した本事業の実施により、「地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備」の基盤となる地域におけるネットワークづくりは大きく進展した。2021年度は都道府県内のネットワークの自走に重点を置き、前年度に類型化した課題を「人材の育成」と「組織の確立・充実」の方向性から解決を図り、「全体会」「課題別ワークショップ」「報告会」を実施した。30の都道府県において障がい者サッカーを管轄する組織や会議体が設置され、その連携から障がい者サッカーの普及状況に応じた活動も生まれてきている。今後も本事業を継続していくとともに、各都道府県内の障がい者サッカーを推進する組織に並走しサポートを行なっていく。また、サッカーの事例をロールモデルとして、広くスポーツ界全体へと広げていく。